

## 第 2 外国語としてフランス語を 履修する学生の現状報告

平 井 裕

### はじめに

大学教育の質的向上は、われわれ教員の勉学と研究に対する日々の努力にかかっているが、そのためにはわれわれの教育対象である学生の現状をできるかぎり客観的に把握することも大切である。教育内容の一層の充実と質的向上はそれなしには考えられないともいえる。

第 2 外国語としてフランス語を受講している学生の実態については、授業、テスト、その他の機会を通して膚で感じてきたし、また資料などをもとに客観的に理解し、把握しているつもりであるが、やはり実際には十分につかみきれない部分、問題点が多いというのがこれまでの正直な実感でもある。

外国語教育の中でも、とりわけ第 2 外国語教育をとりまく状況はかなり厳しいと判断せざるをえないのである。語学教育への批判があれこれと言われている現在、学生の実態をつかむことなしには教育目標は達せられないと思われる。そのためにはまずとにかく学生たちの意見に耳を傾け、彼らの気持を理解し、勉学の実態を知ることが大切なことであり、教師だけが納得して一方的に授業を進めていくのでは学生不在であり、教育目標は遠くなるばかりであると考えられる。

今回実施した調査では、こちらの用意した項目にありのままに記述してもらうことで、語学に対する自己診断、意見あるいは率直な感想などを得ることができ、フランス語受講学生の現状の一端が浮きぼりにされたと思われる。

また、この調査で得られた数字の裏付けをもとに、第2外国語としてのフランス語学習者のある程度具体的かつ正確な状況をつかみ、点検をおこなうことができたと思う。

この調査報告が、この報告に取り上げた3大学と同じような状況に置かれているその他の多くの大学でも、外国語教育の改善、教授法の検討、教材の作成、学生指導、カリキュラム等の参考となれば幸いである。

## 1. 調査の概要

〔調査時期〕 1985年11月の3週目を中心にして実施したが、事情により、ごく一部は実施時期が翌年の1月にずれ込んでしまった。

調査は授業の一部を割愛し、約40分かけて実施、その場で回収したものである。

〔調査対象〕 学生は早稲田大学商学部、明治大学商学部、東京学芸大学で選択必修科目として第2外国語初級フランス語を学ぶ受講者である。以下、大学名は早稲田、明治、学芸とする。

次表は、フランス語受講者総数とアンケート調査の回答数、フランス語受講者総数に対するアンケート回収数の抽出率である。

大学名	フランス語 学習者総数	今回のアンケー ト調査の回答数	フランス語学習者総数に対す るアンケート回答数の抽出率
早稲田	454名	266名	58.59%
明 治	384	200	52.08
学 芸	345	217	62.89
合 計	1,183	683	57.73

大学別の男・女数は次の通りである。

大学名	男	女
早稲田	248名	18名
明 治	193	7
学 芸	95	122
合 計	536	147

## 〔注〕

- a. 早稲田は90分2コマで、一人の教員が担当している。  
 明治は90分2コマで、多くの場合、文法は主に専任教員、講読は非常勤教員が担当している。  
 学芸は100分1コマで、ほとんど専任教員が担当している。  
 なお、このアンケートに協力してくれたクラスは、各大学ともすべて専任教員が担当している。
- b. 早稲田、学芸のアンケート回答者には、1年以外の単位未修者が若干含まれている。  
 明治では再履修クラスが設置されているので、回答者はすべて1年次生である。
- c. 各大学1クラス平均人数は以下の通りである。  
 早稲田：42名。  
 明 治：55名。  
 学 芸：38名。
- d. 各大学に設置されている第2外国語は以下の通りである。  
 早稲田：フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語。  
 明 治：フランス語、ドイツ語、中国語。  
 学 芸：フランス語、ドイツ語、ロシア語。

## 〔調査の内容〕

## フランス語教育に関する調査

## 調査のお願い

大学におけるフランス語教育には種々の問題が山積し、改善が必要のように

思えます。今回の調査は、これからのフランス語教育に対しての基礎資料として語学教育の目的のためにのみ必要とし、それ以外の目的に流用することは決してありませんので、質問事項にありのままお答え下さるようお願いいたします。

早稲田大学商学部

平 井 裕

回答上でのお願い

- ①  箇所には必要な事項を記入して下さい。  
 ② 選択肢のある場合には、ふさわしい番号に○を付けて下さい。  
 ③ 記述欄には自由に書いて下さい。

次の事項についてご記入下さい。

① 大学名： 大学  学部  学科

② 性 : 1. 男 2. 女

## I 英語

質問 1. 英語を週におよそ学校で何時間 (a) 学びましたが。また、各々の時期に塾や予備校で週何時間 (b) 学びましたか。

時 期	時 間 (a)	時 間 (b)
小 学 校		
中 学 校		
高校 1 年		
高校 2 年		
高校 3 年		
浪 人		

質問 2. (1)現在の段階での英語の読む、書く、聞く、話すの能力についてお聞きしますので、各々についてお答え下さい。

読む：1. 得意 2. 不得意 3. 普通

書く：1. 得意 2. 不得意 3. 普通

聞く：1. 得意 2. 不得意 3. 普通

話す：1. 得意 2. 不得意 3. 普通

(2)読む、書く、聞く、話すのうちで、何が一番得意ですか。

1. 読む 2. 書く 3. 聞く 4. 話す

(3)ではその一番得意な能力が伸びた時期はいつでしたか。

(4)その伸びた原因は何だと思いですか。

記  
述  
欄

(5)読む、書く、聞く、話すのうちで何が一番不得意ですか。

1. 読む 2. 書く 3. 聞く 4. 話す

(6)その不得意になってしまった原因は何だと思いですか。

記  
述  
欄

質問 3. 大学における英語についての自由な意見をお聞かせ下さい。

記  
述  
欄

## II フランス語

質問 1. (1)大学で英語以外に第2外国語を学ぶ必要性についてどう考えますか。

1. 絶対必要 2. 必要 3. あまり必要でない 4. 不必要

(2)絶対必要、あるいは必要に○をした方は、その理由をお聞かせ下さい。

記  
述  
欄

(3)あまり必要でない、あるいは不必要に○をした方は、その理由をお聞かせ下さい。

記  
述  
欄

質問 2. 第2外国語としてフランス語を選んだ動機・目的をお聞かせ下さい。

記  
述  
欄

質問 3. この時期まで学んだ段階でのフランス語に関しお聞きしますので、それぞれについて意見をお聞かせ下さい。

(1)発音：1. むずかしい 2. やさしい 3. どちらともいえない

(2)具体的に、文を読む際にどの程度ですか。

1. ほぼ完全にできる 2. あまり間違わない 3. よく間違える 4. 全く駄目

(3)よく間違えると、全く駄目に○をした方は、単語をどのように覚えていくのですか。

1. 英語読みで 2. ローマ字読みで 3. ただ書くだけ 4. 適当に  
5. 眺めることで

(4)文法：1. むずかしい 2. やさしい 3. どちらともいえない

その理由をお聞かせ下さい。

記  
述  
欄

質問 4. (1)現在のフランス語の授業時間数は適当ですか。

1. 多い 2. 少ない 3. 適当

(2)多い、少ないのいずれかに○を付けられた方は、1回の授業につきどの位の時間が適当だと思われませんか。

分

(3)あなたが(2)で答えられた時間で1週に何回が適当だと思われませんか。

回

質問 5. 授業進度についてお聞きします。

1. 早すぎる 2. 早い 3. 遅すぎる 4. 遅い 5. 適当

質問 6. フランス語の勉強(予習と復習)に1週間に平均どのくらいの時間をかけていますか。

時間  分

質問 7. (1)フランス語の1クラス当りの現在の受講人員はどう思われますか。

1. 非常に多い 2. 多い 3. 適当 4. 少ない

(2)(1)の質問に、非常に多い、多いに○をされた方は、およそ何人位が適当と思われませんか。

人

質問 8. (1)フランス語学習のために授業外でL・L教室(設備)を利用したことがありますか。

1. ある 2. ない

(2)(1)であるに○をされた方は何回ぐらい利用しましたか。

回

質問 9. 授業以外でフランス語を学習するのに今までに何を利用しましたか。

1. 日仏学院, アテネ・フランセ, その他の教育機関
2. ラジオ講座
3. テレビ講座
4. 教科書テープ
5. その他のテープ, ビデオ, レコード

質問 10. 授業以外でフランス語を学習するのに現在何を利用していますか。

1. 日仏学院, アテネ・フランセ, その他の教育機関
2. ラジオ講座
3. テレビ講座
4. 教科書テープ
5. その他のテープ, ビデオ, レコード

質問 11. 前期と後期の大きな試験と小さな試験(例えば, 単語や動詞の活用などを含める)は, 年間に何回が適当だと考えられますか。

1. 大きな試験  回
2. 小さな試験  回

質問 12. フランスという国から, 具体的に何が思い浮かびますか, またはどんな関心がありますか。3つお書き下さい。

1.
2.
3.

質問 13. フランス語についての自由な意見をお聞かせ下さい。

記  
述  
欄

### Ⅲ 生活

質問 1. 今まで授業にどのくらい出席していますか。

1. 出欠をとる, とらぬにかかわらず出席している。
2. 出欠をとる授業には出席するが, とらぬ授業にはあまり出席しない。
3. 全般に欠席することが多い。
4. 授業内容に興味をひかれる場合出席する。
5. テストの前のみ出席している。

6. クラブ、サークル活動、その他のため出席できないことが多い。

質問 2. 自宅、図書館等でフランス語以外の授業、その他のために、平均すると1日に何時間ぐらい机に向かいますか。

1.  時間 2. ほとんどない（目安としては30分未満） 3. 全くない

質問 3. 授業以外で先生方と接するようがありますか。

1. よくある 2. ときどきある 3. ほとんどない 4. 全くない

質問 4. 先生と接するチャンスがあれば接したいとお思いですか。

1. あればいいと思う 2. 思わない 3. どちらでもよい

質問 5. 課外活動では、どのようなクラブ、サークルに属していますか。

1. スポーツサークル 2. 文化系サークル 3. 体育系公認クラブ 4. 文化系公認クラブ 5. 他の活動 6. 所属したことがない 7. 所属したことがあるが、今はやめてしまっている

質問 6. 何らかの課外活動をしている場合、平均1日にどのくらいの時間をそのために使っていますか。

時間  分

質問 7. (1)入学以来アルバイトをしたことがありますか。

1. ある 2. ない

(2)(1)であると答えられた方のその必要度はどの程度でしょうか。

1. 小遣が足りない 2. 生活費、学費、その他の一部を補うため 3. 生活費、学費のため絶対必要 4. 必要性はあまりない 5. その他

質問 8. (1)アルバイトをした方におたずねしますが、入学以来どの程度しましたか。

1. 授業期間中ときどき 2. 夏期休暇中 3. 継続的にしている（授業、休暇中にかかわりなく）

(2)その職種は何でしたか。

(3)入学以来のアルバイト収入は月に平均どのくらいの額になりますか。

 円

質問 9. 現在の大学生活について満足していますか。

1. 大いに満足している 2. 満足している 3. 不満足のことが多い 4. 不満足である 5. どちらともいえない

質問 10. 大学に対して要望、その他があれば自由にお書き下さい。

記  
述  
欄

〔調査へのご協力ありがとうございました〕

### 〔調査の集計〕

記述欄への回答は、その内容により、私の判断で分類させて頂いた。しかし、判断のつきかねる場合には、他の先生の判断をあおぎ、相談の結果、分類したものもある。

「英語」と「フランス語」のデータの集計と処理には、本学情報科学教育センターの SPSS-X を利用した。

「生活」のデータの集計と処理は、電卓を利用した。

「英語」と「フランス語」のデータに合計 100% を超えたものがあるのは、選択肢あるいは解答が複数になったものがあつたためである。

「生活」の項のパーセントは全て 100% になっている。それは四捨五入で 100% にならない場合に項の中で一番大きなもので調整をしたことによる。

## 2. 調査結果の報告

本来ならば、調査票の項目順に報告していくのが筋道であろうが、まずこの調査対象となった学生の姿を把握することから、「生活」、次に「英語」、最後に「フランス語」という順番にする。また、いくつかの質問事項の報告は、種々の理由から省かせて頂いた。

それ故に、調査に用いた本来の番号とは別に、以下の報告では新たな番号を付けて報告することをお許し頂きたい。

「生活」は、全体の傾向、学校別、「英語」と「フランス語」は、全体の傾向、学校別、男女別の順に原則として報告する。

以下に調査結果を見て行くことにする。

## I 生活

### 1. 今まで授業にどのくらい出席していますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
出欠をとる、とらぬにかかわらずほとんど出席している	39	28	33	62
出欠をとる授業には出席するが、とらぬ授業にはあまり出席しない	39	46	47	24
全般に欠席することが多い	7	10	5	3
授業内容に興味をひかれる場合出席する	10	11	9	9
テストの前のみ出席している	1	0	2	0
クラブ、サークル活動、その他のため出席できないことが多い	4	5	4	2

全体の平均では「出欠をとる、とらぬにかかわらずほとんど出席している」と「出欠をとる授業には出席するが、とらぬ授業にはあまり出席しない」が、同率の39%であるが、前者は一般的には授業に対する姿勢が真面目でおとなしく、熱心さを時に感じさせるような学生たちであり、後者は要領よく単位をとることを考え、試験前になると借りたノートをコピーするような、あるいは遊び、サークル、アルバイト等に忙しい学生たちと想像できる。

大学別に見ると、「出欠をとる授業には出席するが、とらぬ授業にはあまり

出席しない」が早稲田では46%、明治では47%と答えた人が多く、次には「出欠をとる、とらぬにかかわらずほとんど出席している」が早稲田では28%、明大では33%となり、類似した傾向を見せている。

学芸は、二私大とは全く逆な傾向を見せ、「出欠をとる、とらぬにかかわらず出席している」が62%と高率を示し、次に「出欠をとる授業には出席するが、とらぬ授業にはあまり出席しない」が24%になっている。

2. 自宅、図書館等でフランス語以外の授業、その他のために、平均すると1日何時間ぐらい机に向かいますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
机に向かう	37	35	31	46
ほとんどない	48	46	52	46
全くない	15	19	17	8

〔机に向かう者の勉強時間〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
1 時間未満及び1 時間台	59	60	55	61
2 時間台	28	30	27	27
3 時間台	8	7	10	7
4 時間台	3	2	3	4
5 時間以上	2	1	5	1

「ほとんどない」と「全くない」を合わせてみると、全体では63%、学校別に見ると、早稲田では65%、明治では69%、学芸では54%となる。

机に向かう者の勉強時間を見ると、最も多いのが、「1 時間未満及び1 時間台」で、全体では59%、学校別に見ると早稲田では60%、明治では55%、学芸では61%となっている。このような結果を見ると、苛酷な受験勉強に対する反動とはいえ、あまりにも勉学時間が少なく、日本の大学生が“少学生”と言われることも納得できるのである。

## 3. 授業以外で先生方と接するようになりますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
よくある	2	1	2	3
ときどきある	9	7	2	18
ほとんどない	42	44	31	50
全くない	47	48	65	29

全体の平均では「全くない」が最も多く47%である。

大学別に見ると「全くない」が早稲田では48%、明治では65%と最も多い。学芸では「ほとんどない」が50%で最も多い。

だが「ほとんどない」と「全くない」と答えた者を合計すると、全体では89%、学校別に見ると、早稲田では92%、明治では96%、学芸では79%となる。

## 4. 先生と接するチャンスがあれば接したいとお思いですか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
あればいいと思う	52	51	44	63
思わない	9	8	12	6
どちらでもよい	39	41	44	31

3.の質問で学生と教員が教室外で接する機会がきわめて少ないことがわかったが、そこには大学の規模が大きくなり教員と学生のコミュニケーションがはかりにくいといった面や、多人数クラスの授業の存在、その他もあるであろうが、何よりも大きな原因は、学生側の意識の変化と積極性に乏しい待ちの姿勢にあるのではなからうか。私は、「あればいいと思う」の率に7割に近い数字を予想していたのである。

全体では、「あればいいと思う」学生が52%と一番多い。

学校別に見ると「あればいいと思う」が早稲田では51%、学芸では63%と最も多い、明治では「あればいいと思う」と「どちらでもよい」と考えている学生が同率で44%ずつに分かれている。

この調査の対象はほとんど1年次生であったが、学年によって、率がどう変わるのか興味あるところである。

5. 課外活動では、どのようなクラブ、サークルに属していますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
スポーツサークル	45	50	52	31
文化系サークル	13	15	11	14
体育系公認クラブ	11	4	7	22
文化系公認クラブ	7	6	7	8
他の活動	3	2	3	6
所属したことがない	9	3	12	13
所属したことがあるが、今はやめてしまっている	12	20	8	6

全体の平均でも、学校別でも「スポーツサークル」に所属している学生が最も多く、全体では45%と予想通り最も多くなっている。

学校別に見ても、全体と同じように早稲田50%、明治52%、学芸31%と「スポーツサークル」に所属している者が最も多くなっており、学芸は私大2校に比べると31%とかなり低い率である。しかし「体育系公認クラブ」に所属している学生が、私大2校（早稲田4%、明治7%）に比べて、22%もいるのが特徴である。

この調査をした時点で、この質問に答えなかった学生、すなわち何も活動していない学生は、全体では21%、学校別に見ても早稲田では23%、明治20%、学芸19%と全体と似た傾向である。

6. (1)入学以来アルバイトをしたことがありますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
ある	88	88	83	92
ない	12	12	17	8

(2)(1)であると答えられた方のその必要度はどの程度でしょうか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
小遣が足りない	50	58	57	35
生活費、学費、その他の一部を補うため	27	21	22	38
生活費、学費のため絶対必要	11	7	9	16
必要性はあまりない	8	10	7	6
その他	4	4	5	5

全体の平均では88%の学生がアルバイトをし、学校別でも、早稲田88%、明治83%、学芸92%の高率でアルバイトをしている。

アルバイトの必要度は、全体の平均では「小遣が足りない」としている者が50%で一番多くなっている。

学校別に見れば、「小遣が足りない」とした者が、早稲田では58%、明治では57%と最も多く、学芸では、「生活費、学費、その他の一部を補うため」が38%で一番多くなっている。

7. アルバイトをした方におたずねしますが、入学以来どの程度しましたか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
授業期間中ときどき	21	23	24	14
夏期休暇中	17	19	17	15
継続的にしている (授業、休暇中にかかわりなく)	62	58	59	71

全体、学校別に見ても、「継続的にしている」が一番多く、全体では62%、早稲田58%、明治59%、学芸71%にのぼる。

〔注〕 アルバイトの職種は、家庭教師、塾教師、店員、配達員、警備員、ウエーターなどが多く、1か月平均のアルバイト収入は、その必要度によってかなり違うが、おおよそ1～4万円が標準的金額であった。

## 8. 現在の大学生生活について満足していますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸
大いに満足している	3	2	4	3
満足している	33	34	22	43
不満足のことが多い	27	29	31	20
不満足である	8	8	9	6
どちらともいえない	29	27	34	28

「大いに満足している」と「満足している」を合わせると、全体では36%、学校別にみると、早稲田では36%、明治26%、学芸46%と学校によってかなり満足度に差がみられる。

「不満足のことが多い」と「不満足」を合わせると、全体では35%、学校別にみると、早稲田では37%、明治40%、学芸26%である。

## II 英語

1. (1)現在の段階での英語の読む、書く、聞く、話すの能力についてお聞きしますので、各々についてお答え下さい。

## 〔読む能力〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
得 意	26.9	36.1	26.0	16.6	29.7	17.0
不得意	11.6	8.3	7.5	19.4	10.3	16.3
普 通	61.5	55.6	66.5	64.1	60.1	66.7

〔読む能力〕について自己診断してもらったわけであるが、全体の平均では「普通」と判断している学生が61.5%と一番多い。

学校別に見ても「普通」と判断している学生が一番多いわけであるが、「得意」と判断している数字を見るならば、学校間の差が大きいことがわかる。早稲田では、「得意」と判断したのは36.1%、明治26%、学芸16.6%となっている。

男女別では、「得意」と判断したのは男子29.7%，女子17%で，男子の方が率が高い。

## 〔書く能力〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
得 意	12.3	16.2	13.0	6.9	14.0	6.1
不得意	27.8	24.8	23.0	35.9	27.1	30.6
普 通	59.9	59.0	64.0	57.1	59.0	63.3

自己診断によると，全体の平均では、「普通」と判断している学生が59.9%と一番多い。次に、「不得意」が27.8%となっている。

学校別でも，全体の場合と同じ傾向である。やはり学校間の差もあるが，〔読む能力〕で見られたほどの差はない。

男女別では、「得意」にとりわけ差が見られ，男子の場合14%，女子6.1%という率となっている。

## 〔聞く能力〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
得 意	7.3	11.3	3.0	6.5	6.9	8.9
不得意	56.3	50.0	62.5	58.3	56.7	54.8
普 通	36.4	38.7	34.5	35.2	36.4	36.3

全体としても，学校別でも，「不得意」と判断している者の率が高い。〔読む〕，〔聞く〕とで見られたほどの大きな差は見られない。

男女別でも，全体，学校別と同様の傾向を見せているし，男女の差はほとんどないともいえる。

## 〔話す能力〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
得 意	5.0	6.8	2.5	5.1	4.9	5.4
不得意	65.7	58.6	72.0	68.7	64.9	68.7
普 通	29.3	34.6	25.5	26.3	30.2	25.9

全体の平均では、「不得意」と自己診断している者が65.7%と最も多い。

学校別も全体と同じような傾向を示している。

男女別ではやはり「不得意」が男子64.9%、女子68.7%と共に高率を示している。「得意」は男子4.9%、女子5.4%とごくわずかながら女子の率が高い。

(2)読む、書く、聞く、話すのうちで何が一番得意ですか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
読 む	75.3	77.1	78.0	70.6	75.8	73.4
書 く	13.4	11.7	14.5	14.7	13.5	13.3
聞 く	7.7	7.1	5.5	10.4	7.1	9.8
話 す	3.5	4.1	2.0	4.3	3.6	3.5

四つのうちで、自分の中で他の能力に比べて最もすぐれていると判断している能力を書かせたわけであるが、1位は全体、学校別、男女別でも、「読む」が圧倒的に多く全体の7割以上を占めている。

(3)ではその一番得意な能力が伸びた時期はいつでしたか。

〔読むの場合〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
中学時代	19.7	14.4	18.4	28.2	17.3	29.0
高校時代	34.0	35.1	21.7	45.8	29.6	51.0
浪人時代	45.5	50.0	59.9	23.9	52.1	20.0
大学入学後	0.8	0.5	0.0	2.1	1.0	0.0

全体の平均で見ると、「浪人時代」が45.5%と率が高く、次に「高校時代」、「中学時代」と続く。

学校別に見ると、かなりの差が見られる。すなわち、私大2校の最も伸びた時期は「浪人時代」であるが、学芸の場合は「高校時代」である。

男女別では、男女間にかかなりの差異がみられるが、1位には男子の場合「浪人時代」で52.1%、女子の場合「高校時代」で51%となっている。

## 〔書くの場合〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
中学時代	34.4	35.5	20.7	46.7	33.3	38.9
高校時代	35.6	35.5	31.0	40.0	31.9	50.0
浪人時代	27.8	25.8	48.3	10.0	31.9	11.1
大学入学後	2.2	3.2	0.0	3.3	2.8	0.0

全体の平均を見ると、1位は「高校時代」35.6%、2位は「中学時代」34.4%と伯仲している。

学校別に見ると、1位の場合、早稲田では、「中学時代」、「高校時代」が同率で35.5%、明治では「浪人時代」48.3%、学芸では「中学時代」46.7%となっている。

男女別では、男子の場合、その時期が「中学時代」33.3%、「高校時代」、「浪人時代」が共に31.9%と同じくらいの率で三つの時期に分かれている。女子の場合は、「高校時代」が50%と半分を占め、次に「中学時代」が38.9%となっている。

## 〔聞くの場合〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
中学時代	25.5	22.2	27.3	27.8	25.7	25.0
高校時代	42.6	44.4	45.5	38.9	45.7	33.3
浪人時代	14.9	5.6	27.3	16.7	14.3	16.7
大学入学後	17.0	27.8	0.0	16.7	14.3	25.0

全体の平均では「高校時代」が42.6%と最も多い、2位には「中学時代」25.5%と続く。

学校別でも、ほぼ順位には同じような傾向が見られるが学校間でその率に差が認められる。

男女別では、共に1位は「高校時代」で男子は45.7%、女子は33.3%となっている。また、「中学時代」と「浪人時代」の率は、男女の差はほとんどない

が、「大学入学後」の率は、男子14.3%であるのに、女子の方が25%と、率が高くなり男女差が見られる。

〔話すの場合〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
中学時代	14.3	11.1	25.0	12.5	16.7	0.0
高校時代	57.1	66.7	50.0	50.0	55.6	66.7
浪人時代	9.5	0.0	25.0	12.5	5.6	33.3
大学入学後	19.0	22.2	0.0	25.0	22.2	0.0

全体の平均では、1位は「高校時代」57.1%であり、2位に「大学入学後」が19%ながら入っていることに注目したい。

大学別でも、全体と同じような傾向であるが、「大学入学後」では早稲田22.2%、学芸25%と同程度の率を示している。

男女別でも共に「高校時代」が1位であり、男子55.6%、女子66.6%となっている。

(4)その伸びた原因は何だと思いですか。

〔読む力が伸びた原因〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
多 読	25.7	23.3	25.5	29.4	25.5	26.8
努 力	31.1	31.7	33.8	27.2	33.2	22.7
学校の授業	5.7	3.7	2.1	12.5	2.7	17.5
学校の先生	2.3	1.6	0.0	5.9	1.3	6.2
塾と予備校の授業	8.3	9.0	6.2	9.6	7.8	10.3
塾と予備校の先生	4.3	3.2	7.6	2.2	4.8	2.1
受験勉強	17.0	20.1	15.2	14.7	17.4	15.5
その他	12.8	15.3	15.2	6.6	13.4	10.3

比率の高い順に3位までを並べる（「その他」を除く）と、次のようになる。

順位	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
1	努 力 31.1	努 力 31.7	努 力 33.8	多 読 29.4	努 力 33.2	多 読 26.8

2	多読 25.7	多読 23.3	多読 25.5	努力 27.2	多読 25.5	努力 22.7
3	受験勉強 17.0%	受験勉強 20.1	受験勉強 15.2	受験勉強 14.7	受験勉強 17.4	学校の授業 17.5

## 〔書く力が伸びた原因〕

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
和文英訳をたくさんこなした	22.4	20.0	23.1	24.1	20.9	27.8
努力	36.5	33.3	38.5	37.9	40.3	22.2
学校の先生	9.4	6.7	7.7	13.8	9.0	11.1
学校の授業	5.9	6.7	0.0	10.3	4.5	11.1
塾と予備校の授業	4.7	6.7	3.8	3.4	6.0	0.0
塾と予備校の先生	1.2	0.0	3.8	0.0	1.5	0.0
受験勉強	15.3	13.3	19.2	13.8	11.9	27.8
その他	8.2	20.0	3.8	0.0	9.0	5.6

比率の高い順に3位までを並べる（「その他」を除く）と、次のようになる。

順位	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
1	努力 36.5	努力 33.3	努力 38.5	努力 37.9	努力 40.3	和文英訳をたくさんこなした 27.8
2	和文英訳をたくさんこなした 22.4	和文英訳をたくさんこなした 20.0	和文英訳をたくさんこなした 23.1	和文英訳をたくさんこなした 24.1	和文英訳をたくさんこなした 20.9	努力 22.2
3	受験勉強 15.3	受験勉強 13.3	受験勉強 19.2	受験勉強・学校の先生 13.8	受験勉強 11.9	学校の先生 11.1

## 〔聞く力が伸びた原因〕

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
FEN	18.4	5.3	40.0	20.0	10.8	41.7
ラジオ・テレビの講座	24.5	10.5	30.0	35.0	18.9	41.7
学校の授業	12.2	21.1	10.0	5.0	13.5	8.3
E. S. S	6.1	10.5	0.0	5.0	5.4	8.3
英会話教室	10.2	5.3	0.0	20.0	8.1	16.7

英語の歌を聞いて	14.3	5.3	30.0	15.0	16.2	8.3
その他	32.7	42.1	30.0	25.0	37.8	16.7

比率の高い順に 3 位までを並べる（「その他」を除く）と、次のようになる。

順位	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
1	ラジオ・テレビの講座 24.5	学校の授業 21.1	FEN 40.0	ラジオ・テレビの講座 35.0	ラジオ・テレビの講座 18.9	FEN 41.7
2	FEN 18.4	ラジオ・テレビの講座 10.5 E. S. S 10.5	ラジオ・テレビの講座 30.0 英語の歌を聞いて 30.0	FEN 20.0 英会話教室 20.0	英語の歌を聞いて 16.2	ラジオ・テレビの講座 41.7 英会話教室 16.7
3	英語の歌を聞いて 14.3	FEN 5.3 英会話教室 5.3 英語の歌を聞いて 5.3	学校の授業 10.0	英語の歌を聞いて 15.0	学校の授業 13.5	学校の授業 8.3 E. S. S 8.3 英語の歌を聞いて 8.3

【話す力が伸びた原因】

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
ラジオ・テレビの講座	9.1	10.0	25.0	0.0	11.1	0.0
E. S. S	27.3	30.0	0.0	37.5	33.3	0.0
学校の授業	4.5	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0
努力	18.2	10.0	25.0	25.0	16.7	25.0
海外体験	27.3	40.0	25.0	12.5	22.2	50.0
その他	22.7	20.0	50.0	12.5	27.8	0.0

比率の高い順に 3 位までを並べる（「その他」を除く）と、次のようになる。

順位	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
1	海外体験 27.3 E. S. S 27.3	海外体験 40.0	ラジオ・テレビの講座、努力、海外体験が各々 25.0 である。	E. S. S 37.5	E. S. S 33.3	海外体験 50.0
2	努力 18.2	E. S. S 30.0		努力 25.0	海外体験 22.2	学校の授業 25.0
3	ラジオ・テレビの講座 9.1	ラジオ・テレビの講座 10.0 努力 10.0		学校の授業 12.5 海外体験 12.5	努力 16.7	努力 25.0

## 〔参考〕

四つの能力が伸びた時期に関して「大学入学後」と答える学生は、この調査前には平均して20%前後を予想していたが、その結果は全体の平均で見ると、〔読む〕は0.8%、〔書く〕2.2%、〔聞く〕17%、〔話す〕19%という数字にとどまった。しかし大学入学まで受験英語にエネルギーを奪われてきた学生が入学後、更に英語の力を身につけたいと望む学生にとって「聞く」、「話す」など「会話」に関心が集まっていることをこの数字は表わしているといえる。

以下に、「大学入学後」とした学生の記述欄の内容を数例紹介する。

〔読む〕の場合：「入試という重圧感がなくなり、自由な気分で好きな洋書をいろいろ読めるので」

〔書く〕の場合：「語学の専門学校に行くようになったので」なお早稲田の学生の一人は「授業のおかげ」としている。しかし他の能力では「授業」にその伸びた原因を記した記述は、〔聞く〕に一人いたが、残念ながら、〔読む〕と〔話す〕には一人もいなかった。

〔聞く〕の場合：「テレビ、ビデオなどを通して、英語に接する時間を多く持ったため」

「英会話サークルに入って native と話す機会ができたから。また、ラジオ英会話講座や英語によるニュースをできるだけ聞くようにしているから」

〔話す〕の場合：「E.S.S. に入ったことで外人と話せる機会が増えたので」

(5)読む、書く、聞く、話すのうちで何が一番不得意ですか。

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
読む	1.3	1.1	0.0	2.8	0.9	2.7
書く	12.2	14.4	6.0	15.2	11.8	13.7
聞く	35.6	29.7	46.7	32.7	37.1	30.1
話す	50.8	54.8	47.2	49.3	50.1	53.4

(2)から想像できるわけであるが、全体でも、学校別、男女別でも一番不得意

と自己診断している能力の1位は、「話す」である。

学校別では、早稲田と学芸は、ほぼ似た傾向を示しているが、明治の「書く」と「聞く」に関しては、他2校とちがった傾向を示している。

(6)その不得意になってしまった原因は何だと思いですか。

ここでは(5)の結果で不得意にした率の高い能力のものからその理由をみていくことにする。

[話すの場合]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
話す機会が(あまり)ない	49.2	48.9	45.6	52.9	48.4	52.0
受験中心の英語教育	23.9	23.4	25.6	23.1	22.3	29.3
勉強不足	16.0	25.5	11.1	7.7	19.1	5.3
話しべた・性格のせい	6.0	4.4	4.4	9.6	5.5	8.0
その他	9.1	4.4	14.4	10.6	9.4	8.0

比率の高い順に3位までを並べる(「その他」を除く)と、次のようになる。

順位	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
1	話す機会が(あまり)ない 49.2	話す機会が(あまり)ない 48.9	話す機会が(あまり)ない 45.6	話す機会が(あまり)ない 52.9	話す機会が(あまり)ない 48.4	話す機会が(あまり)ない 52.0
2	受験中心の英語教育 23.9	勉強不足 25.5	受験中心の英語教育 25.6	受験中心の英語教育 23.1	受験中心の英語教育 22.3	受験中心の英語教育 29.3
3	勉強不足 16.0	受験中心の英語教育 23.4	勉強不足 11.1	話しべた・性格のせい 9.6	勉強不足 19.1	話しべた・性格のせい 8.0

[聞くの場合]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
英語教育体制の欠陥	22.1	29.7	12.2	26.9	21.4	25.6
ヒヤリングの機会がなかった(少なかった)	32.5	25.7	38.9	31.3	31.3	38.5
ネイティブスピーカーに接する機会がなかった(少なかった)	16.0	16.2	17.8	13.4	15.6	17.9

勉強不足	13.9	12.2	14.4	14.9	13.5	15.4
ラジオ・テレビ・テープ等を (あまり) 利用しなかった	5.6	10.8	4.4	1.5	5.7	5.1
耳が慣れない	4.8	4.1	4.4	6.0	4.2	7.7
その他	9.5	6.8	11.1	10.4	11.5	0.0

比率の高い順に3位までを並べる(「その他」を除く)と、次のようになる。

順位	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
1	ヒヤリングの機会がなかった(少なかった) 32.5	英語教育体制の欠陥 29.7	ヒヤリングの機会がなかった(少なかった) 38.9	ヒヤリングの機会がなかった(少なかった) 31.3	ヒヤリングの機会がなかった(少なかった) 31.3	ヒヤリングの機会がなかった(少なかった) 38.5
2	英語教育体制の欠陥 22.1	ヒヤリングの機会がなかった(少なかった) 25.7	ネイティブスピーカーに接する機会がなかった(少なかった) 17.8	英語教育体制の欠陥 26.9	英語教育体制の欠陥 21.4	英語教育体制の欠陥 25.6
3	ネイティブスピーカーに接する機会がなかった(少なかった) 16.0	ネイティブスピーカーに接する機会がなかった(少なかった) 16.2	勉強不足 14.4	勉強不足 14.9	ネイティブスピーカーに接する機会がなかった(少なかった) 15.6	ネイティブスピーカーに接する機会がなかった(少なかった) 17.9

### 〔参考〕

〔聞く〕についての学生の記述欄の内容を紹介する。

『受験英語の勉強ばかりしたため「話す、聞く」といったいわゆる、日常英語に縁がうすかった。

受験にヒヤリングがなかったため、積極的にテレビ、ラジオを利用することもなかった。悲しいけれど、これが現実です』

こうした内容こそ、「聞く、話す」といった能力が極端に低いことに対する多数の学生の声を代弁するものといえよう。

## 〔書くの場合〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
勉強不足	38.2	38.9	44.4	35.5	36.8	42.1
単語力, 構文, 文法などの力不足	25.0	19.4	11.1	35.5	24.6	26.3
書く機会が少ない	19.7	22.2	22.2	16.1	21.1	15.8
その他	19.7	19.4	22.2	19.4	19.3	21.1

比率の高い順に 2 位までを並べる（「その他」を除く）と、次のようになる。

順位	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
1	勉強不足 38.2	勉強不足 38.9	勉強不足 44.4	勉強不足 35.5 単語, 構文, 文法などの力 不足 35.5	勉強不足 36.8	勉強不足 42.1
2	単語力, 構文, 文法などの力不足 25.0	書く機会が少ない 22.2	書く機会が少ない 22.2	書く機会が少ない 16.1	単語力, 構文, 文法などの力不足 24.6	単語力, 構文, 文法などの力不足 26.3

## 〔読むの場合〕

	合 計	早稲田	学 芸	男	女
読書が好きでない	44.4	66.7	33.3	40.0	50.0
単語力, 構文, 文法などの力不足	11.1	0.0	16.7	0.0	25.0
その他	44.4	33.3	50.0	60.0	25.0

## Ⅲ フランス語

1. (1) 大学で英語以外に第 2 外国語を学ぶ必要性についてどう考えますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
絶対必要	7.7	8.0	6.0	8.8	7.7	7.5
必要	39.5	39.5	34.2	44.2	35.3	54.4
あまり必要でない	38.9	36.1	41.7	39.6	40.4	33.3
不必要	14.0	16.3	18.1	7.4	16.5	4.8

全体の平均では、第2外国語を「必要」としている39.5%と「あまり必要でない」38.9%とがほぼ同率である。そして、「不必要」と答えた者と「絶対必要」と答えた者の差が大きいことも特徴といえる。

学校別に見るならば早稲田と学芸では、「必要」が「あまり必要でない」を率としては上回っている。だが明治の場合は、逆に「あまり必要でない」(41.7%)が「必要」(34.2%)を上回っている。

男女別では、男子の場合に最も多いのが「あまり必要でない」(40.4%)、2位は「必要」(35.3%)であり、女子の場合は、逆に、最も多いのが「必要」の54.4%、2位は「あまり必要でない」の33.3%となっており、男女差が認められる。

では次に、「絶対必要」と「必要」を合計し、「あまり必要でない」と「不必要」を合計すると次表のようになる。

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
絶対必要+必要	47.2	47.5	40.2	53.0	43.0	61.9
あまり必要でない+不必要	52.9	52.4	59.8	47.0	56.9	38.1

学芸と女子だけが、「絶対必要」と「必要」を合わせた率が高く、それ以外は、全て「あまり必要でない」と「不必要」を合わせた率の方が高くなっている。とりわけ、男女別では、その差が認められ、女子の方が第2外国語に対する必要度の認識が高いという結果が見られる。

早稲田と明治では学部の性格上、また男子の人数が多いことから、上の表の結果と逆の結果を私としては想像していたわけである。

全体、学校別、男女別でも、外国語の「絶対必要」と「必要」の数字は、この調査が新学期のはじめ頃であったならば、若干違った結果が得られたのではないと思われる。

だが、この調査で得られた結果は、先に見てきた学生の生活実態や、実際には第2外国語の必要性を実感していながらも、継続して、耐えてゆく努力を必要とする語学学習に、嫌気がさしてしまう、また換言すれば、新学期早々には

意欲に満ちていたが、それを持続できなかった学生が多くいるという実態を考え合わせれば妥当な線、学生の本当の気持ちの表われと解釈してもいいのではないかと考えられる。

先の「絶対必要」に見られた数字、全体では7.7%、四捨五入して8%ぐらいが、実際授業をしていて、一生懸命に努力している学習意欲の深さを感じる学生の数に見合う、というのが私自身の実感でもある。

(2)絶対必要、あるいは必要に○をした方は、その理由をお聞かせ下さい。

[絶対必要とした者の理由]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
国際人、国際社会	61.2	65.0	63.6	55.6	61.5	60.0
将来フランスなどに行 った時、役立つ	12.2	25.0	9.1	0.0	15.4	0.0
教養として	28.6	15.0	36.4	38.9	25.6	40.0
その他	2.0	0.0	0.0	5.6	2.6	0.0

その動機が、かなり主体的、社会的な強さを感じさせる「国際人、国際社会」が1位であり、全体の平均では61.2%、学校別でも、早稲田65%、明治63.6%、学芸55.6%、男女別に見ても、男子61.5%、女子60%と群を抜いて多い。

さらに、学校別に早稲田と学芸を比較するならば、学部の性格、差異がよみとれる。すなわち、1位の「国際人、国際社会」は早稲田65%、学芸55.6%と差が認められ、さらに2位を見るならば早稲田では「将来フランスなどに行った時役立つ」が25%、学芸では0%であり、そのかわりに「教養として」が38.9%という率を示している。

[必要とした者の理由]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
国際人、国際社会	29.2	40.4	21.3	22.6	32.0	22.7
教養として	49.0	36.4	54.1	59.1	44.9	58.7
英語、日本語を見直す機会	9.9	9.1	9.8	10.8	9.0	12.0

文献・資料などを読みたい	2.0	2.0	1.6	2.2	1.1	4.0
将来、フランスなどに行った時役立つ	5.9	4.0	11.5	4.3	7.3	2.7
その他	6.7	10.1	4.9	4.3	7.9	4.0

全体の平均では、1位が「教養として」(49%)、2位が「国際人、国際社会」(29.2%)であり、[絶対必要とした者]では、1位が「国際人、国際社会」(61.2%)、2位「教養として」(28.6%)といった結果であり、両者を比較するならば、第2外国語に対するまったく違った姿勢が感じられる。第2外国語への教養志向が、[必要とした者]には強いことがうかがえるのである。

学校別に見ると、早稲田では、1位に「国際人、国際社会」(40.4%)、2位に「教養として」(36.4%)が続き、1位と2位の差はごくわずかであるが全体の平均で見た場合と順位がことなる。その他2校は、全体の平均と同じ傾向を見せて、「教養として」の率が「国際人、国際社会」の率をかなり上回っている。

男女別では、1位は「教養として」であり、男子44.9%、女子58.7%、2位は「国際人、国際社会」であり、男子32%、女子22.7%という結果、女子の教養志向が男子に比べ高くなっている。[必要とした]女子は、[絶対必要]と答えた女子より一層教養主義的傾向が強いといえるであろう。

次に、逆に最も率が低いのは「文献・資料などを読みたい」とした理由であり、全体では2%、学校別でも、早稲田2%、明治1.6%、学芸2.2%である。男女別を見るならば、最も率が低いのは、男子は「文献・資料などを読みたい」(1.1%)、女子は「将来フランス等に行った時役立つ」(2.7%)である。女子の「文献・資料などを読みたい」は男子を上回り、4%となっている。

このような結果から、学生の活字離れが読みとれるのではないかと思われる。

#### [参考]

第2外国語を学ぶ必要性について、絶対必要、あるいは必要と答えた学生の記述欄にあった内容をいくつか以下に紹介する。

「国際人になるためには、たくさんの言語を学ぶ必要があり、その国の言葉を学ぶことにより、その国の文化を吸収できるから」

「現在日本は国際化されたといわれるが、まだまだ日本は閉鎖的である。これから日本がより外へ大きく伸びるためには語学が大切になってくる。英語だけでは駄目だと思う」

「国際人としての広い視野をもち、世界に出て通用するようになるため」

「国際人としての日本人のレベルを上げるために」

「もっと国際人にならなければならない。語学等を通してその国の人々の考えを知ることは、これからの国際交流において必要であるため」

「身につく、つかないにしろ、他国の言語に接することは大切なことだと思う」

「学べる時期にはできる限り、他の国の言語も学んでいた方がいい」

「色々な言語に触れることで、物の見方が広がる」

「英語を十分に読み、書き、話せるわけではないが、第2外国語に接するのは教養として有意義だから」

「新たに外国語を学ぶことで、英語や日本語と関連して考える機会となる」

「英語や日本語を見直すチャンスであるから」

「かなりの年数をかけて英語を勉強してきたということは、ある1つの言語をかなり知ったというわけだから、それと比較する意味でも何かもう1つの外国語を学習するとよいのではないかと思う」

「文献、書物はすべて英語で書かれているわけではない」

「辞書を用いて文章を読むことができるようになれば、自分でフランス語で書かれている読みたいものの内容ぐらひは理解できる程度の学力はつくと思うから」

〔あまり必要でないとした者の理由〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
英語に力を入れるべき	16.7	22.8	14.3	12.2	18.1	10.6
将来用いる可能性が少ない	17.1	25.0	11.7	13.4	16.7	19.1
将来用いることがない	23.1	8.7	37.7	25.6	25.5	12.8
教養として	2.8	1.1	0.0	7.3	1.0	10.6
選択にすべき	11.2	7.6	9.1	17.1	9.3	19.1
時間数が少なくて身につかない	25.9	28.3	23.4	25.6	22.5	40.4
その他	9.2	12.0	7.8	7.3	10.8	2.1

すでに見たように〔絶対必要〕で大きな数値であった、また〔必要〕でも他の理由よりも比較的数値の高かった「国際人、国際社会」といった理由が姿を消してしまっている。そして〔必要〕では「教養として」が大きな数値を示していることを見たが、ここではごくわずかの数値（全体の平均では2.8%、学校別では早稲田1.1%、明治0%、学芸7.3%、男女別では男子1%、女子10.6%）しかない。また、〔あまり必要でない〕に見られる学生の他の理由から判断するならば彼らの第2外国語に対する期待感が乏しいのも1つの特徴といえる。

更に、〔絶対必要〕、〔必要〕で見えてきたように取り上げた理由の中でも1位と2位の占める率が高かったが、ここではそれほど大きな片寄りが見られず、その差が全体として小さいと指摘できよう。

1位、2位を各々まとめて見ると、次のようになる。

順位	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
1	時間数が少なくて身につかない 25.9	時間数が少なくて身につかない 28.3	将来用いることがない 37.7	時間数が少なくて身につかない 25.6 将来用いることがない 25.6	将来用いることがない 25.5	時間数が少なくて身につかない 40.4

2	将来用いる ことがない	将来用いる 可能性が少 ない	時間数が少な く身につか ない	選択にすべき	時間数が少な く身につか ない	将来用いる可 能性が少ない
	23.1	25.0	23.4	17.1	22.5	19.1 選択にすべき 19.1

## 〔参考〕

「あまり必要でない」と答えた学生の記述欄にみられた理由を以下に紹介する。

「第1外国語を身につけるべきであるので、週2時間を使うのは多すぎる。諸外国の技術などをせっせと取り入れた時代のなごりであると思う」

「英語もできないのに手をひろげても週2回の授業では無理があると思うし、中途半端で終わりそうだから」

「英語すら文法や構文こそたたきこまれてはいるものの、ものにしたとはいいがたく、その上、週2回で第2外国語を学んでも、うわべをなでただけで終わってしまう」

「将来も、実生活上もフランス語は必要とならない」

「英語も使う機会がほとんどないのに、ましてやフランス語など使うことがない」

「社会に出て特別な職業につかないかぎり不必要であるため」

「将来、語学を使う仕事に就く人は別として、英語が使えれば普通の人なら生きてゆけると思うし、将来あまり役に立つことはないと思う」

「英語は国際的で使う範囲も多いが、フランス語は自分自身にとって将来あまり利用する機会はないと思うので」

「フランス語を中途半端にやるよりも、国際的な英語にもっと力を入れた方がよい」

「頭が固くなりはじめているので英語が混ざって、英語もよくわからなくなってしまうと思うから、英語に力を入れた方がよい」

「特に語学を学びたい者、将来、その外国語を使って仕事をする者以外にと  
って、忘れるために授業を受けるようなものであるので、希望者のみに第2外国語は選択させるべきであると思う」

〔不必要とした者の理由〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
英語または他の科目を増やしてほしい	19.1	21.4	22.2	6.3	20.7	0.0
将来用いることがない	38.3	31.0	41.7	50.0	40.2	14.3
選択にすべき	10.6	16.7	2.8	12.5	9.2	28.6
時間数が少なくて身につかない	23.4	31.0	16.7	18.8	20.7	57.1
その他	20.2	21.4	22.2	12.5	21.8	0.0

〔あまり必要でない〕に見られた理由の「将来用いる可能性が少ない」、「教養として」が、ここでは見られない。

〔不必要とした者〕の理由の1位は、女子を除き、全体でも、学校別、男子でも「将来用いることがない」であり、その率も第2外国語が〔あまり必要でない〕に表われたた数字と比較して差が目立つといえる。では、以下に〔あまり必要でない〕と〔不必要〕に見られた「将来用いることがない」の率を比較することにする。

〔将来用いることがない〕

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
不必要	38.3	31.0	41.7	50.8	40.2	14.3
あまり必要でない	23.1	8.7	37.7	25.6	25.5	12.8

〔注〕 早稲田の〔不必要〕には同率で「時間数が少なくて身につかない」がある。また、〔不必要〕における女子の第1位は「時間数が少なくて身につかない」(57.1%)である。

このように将来全く第2外国語とは無縁な生活、人生を送ることの可能性が強いと思っている学生達に対して、第2外国語を学ぶ種々の意義を説いても、

彼らの刺激をかき立て、喜びを与えるなどは無理なことではないかと考えられる。

以上のように第 2 外国語を学ぶ必要性についての学生の実態を見てきたわけであるが、クラスに積極的に外国語を学習したいとする学生と正反対に消極的な学生、また中間層ともいえる外国語を通して知的興味を得たいと望んでいる学生たちが同じ教室で一緒に学んでいるわけであり、ここに外国語教育が抱えている大きな問題のひとつがあると数字の上から指摘できると思う。

このように学生たちを三つに大きく分けたわけであるが、少なくとも質の異なる第 2 外国語教育をこれら学生に与える必要があるように考えられる。

## 2. 第 2 外国語としてフランス語を選んだ動機・目的をお聞かせ下さい。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
スマートな印象	21.4	25.3	23.0	15.5	23.9	12.9
他人からすすめられて	5.1	6.1	5.7	3.4	5.1	5.0
フランスとその文化にひかれて	23.2	22.9	12.6	32.5	18.9	38.1
国際的通用度が高いと思って	16.2	20.0	13.2	14.1	16.0	16.5
発音の美しさに魅了されて	15.8	14.3	12.6	20.4	13.0	25.9
英語に比較的似ていると思って	2.4	3.7	0.6	2.4	2.5	2.2
他の外国語から回された	5.4	5.3	12.1	0.0	7.0	0.0
文献・資料などを読みたかった	3.0	1.2	1.1	6.8	2.1	6.5
以前フランス語に触れたことがある	2.2	2.4	0.0	3.9	1.4	5.0
その他	15.8	12.7	23.6	13.1	18.5	6.5

記述欄に見られた動機・目的は多岐にわたっていたが、学生の記述の内容により 9 項目にまとめ、それ以外の内容のものは「その他」にまとめた。

### (1) 主なる各動機・目的の概要

#### (a) スマートな印象

全体の平均では 21.4% であり、学校別では私大二校（早稲田 25.3%、明治

23%)に比べて学芸が15.5%と幾分低い。

男女別では、男子の23.9%に対し、予想に反して女子では12.9%と少なく、差異が認められる。

(b)他人からすすめられて

全体の平均では5.1%であり、学校別、男女別でも、大きな差異は認められない。

(c)フランスとその文化にひかれて

全体の平均では23.2%である。学校別に見ると、早稲田22.9%、明治12.6%であり、学芸は32.5%と三校のうちで一番高くかなりの差異が認められる。

男女別では、男子が18.9%なのに対し、女子では38.1%とかなり率が高く、やはりかなりの差異が認められる。

(d)国際的通用度が高いと思って

全体の平均では16.2%であり、学校別では早稲田が高く20%であり、他2校(明治13.2%、学芸14.1%)より幾分高い。

男女別では、両者の差(男子16%、女子16.5%)は認められない。

(e)発音の美しさに魅了されて

全体の平均では15.8%であり、学校別に見るならば、明治(12.6%)が一番低く、2位は早稲田(14.3%)であり、1位は学芸の20.4%である。これは学芸の男女の人数差による影響のように思える。

男女別では、男子の13%に対し、女子では25.9%と、かなり差異が目立つ。

(f)文献・資料などを讀みたかった

全体の平均では下から数えて3番目と低い3%である。学校別では、早稲田(1.2%)、明治(1.1%)であり、その差が認められず、その率もかなり低い。だが、私大2校に比べて学芸は6.8%と高く、差異が認められる。

(2)合計、学校別、男女別の数値の高い上位4項目(「その他」を除く)

順位	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
1	フランスとその文化にひかれて 23.2	スマートな印象 25.3	スマートな印象 23.0	フランスとその文化にひかれて 32.5	スマートな印象 23.9	フランスとその文化にひかれて 38.1
2	スマートな印象 21.4	フランスとその文化にひかれて 22.9	国際的通用度が高いと思って 13.2	発音の美しさに魅了されて 20.4	フランスとその文化にひかれて 18.9	発音の美しさに魅了されて 25.9
3	国際的通用度が高いと思って 16.2	国際的通用度が高いと思って 20.0	フランスとその文化にひかれて 12.6 発音の美しさに魅了されて 12.6	スマートな印象 15.5	国際的通用度が高いと思って 16.0	国際的通用度が高いと思って 16.5
4	発音の美しさに魅了されて 15.8	発音の美しさに魅了されて 14.3	他の外国語から回された 12.1	国際的通用度が高いと思って 14.1	発音の美しさに魅了されて 13.0	スマートな印象 12.9

以上が上位4項目であるが、学校別でも、男女別でも、ほぼ全体の項目と同じわけであるが、それらの順位とパーセンテージに微妙な差異がある。

### (3)動機・目的の分類

次に動機・目的を大きく3つのグループに分けてみることにする。

第1のグループ：主観的で、自己の判断にもとづき、具体的なイメージを抱いてフランス語を選択した学生である。次のような項目を第1のグループとすることができる。

「フランスとその文化にひかれて」「国際的通用度が高いと思って」「発音の美しさに魅了されて」「英語に比較的似ていると思って」「文献・資料などを読みたかった」「以前フランス語に触れたことがある」

第2グループ：ファッション感覚的で、主体性に乏しく、消極的な理由で選択した学生である。次のような項目を第2グループとすることができる。

「スマートな印象」「他人からすすめられて」

第3グループ：目的意識を持たずまた、フランス語に何も期待していない学

生である。次のような項目を第3グループとすることができる。

「その他」「他の外国語から回された」

第1グループ、第2グループ、第3グループの各々の項目の合計した結果を全体としてみると、次のようになる。

第1グループの場合は62.8%、第2グループの場合は26.5、第3グループの場合は21.2%となる。

この結果を見るならば、自己の判断に基づき、あるいは、或る程度の目的意識を持ってフランス語を選択した学習者が6割強存在している。

第1グループ、第2グループ、第3グループの各々の項目の大学別と男女別の結果は次の通りである。

早稲田の場合：第1グループ64.5%、第2グループ31.4%、第3グループ18%である。

明治の場合：第1グループ40.1%、第2グループ28.7%、第3グループ35.7%である。

学芸の場合：第1グループ80.1%、第2グループ18.9%、第3グループ13.1%である。

大学別では、かなりの差異が認められる。

男子の場合：第1グループ53.9%、第2グループ29%、第3グループ25.5%である。

女子の場合：第1グループ94.2%、第2グループ17.9%、第3グループ6.5%である。

男女別では、女子の方が男性に比べて数字的には動機・目的がかなりしっかりしていると判断できるだろう。

〔参考〕

各々の項目に見られた学生たちの主たる記述内容を紹介しておくことにする。

「スマートな印象」に分類したものは次のようなものがある。

「しゃれているから」「素適に思われると思ったから」「かっこよさそうだから」「雰囲気として上品で、スマートさがあるから」等々。

「他人からすすめられて」に分類したものには次のようなものがある。

「先輩（知人，友人，先生）から勧められて」「親族（父母，兄，姉）から勧められて」「親族がフランス語をとっている（とったことがある）」「友人（先輩）にフランス語を選択する者が多かったから」等々。

「フランスとその文化にひかれて」に分類したものには次のようなものがある。

「映画，演劇，美術などで多大な影響を及ぼしているフランスに興味があった」「古い映画の中には，フランス映画に傑作が多いため，少しでもそれを原語でわかりたいと思ったから」「フランス料理に興味があった」「将来フランスに行きたいので」「フランスの音楽が好きだから」等々。

「国際的通用度が高いと思って」に分類したものには次のようなものがある。

「フランス語ならば，フランスは勿論，中近東，東南アジア，カナダなど世界各地において使えるので」「第 1 外国語としての英語だけでは語学力が足りないし，大学卒業後，実社会に出てからも英語の次に接する機会が多いのではないかと考えたから」「国際的に英語の次に使用頻度が高いと思うので」等々。

「発音の美しさに魅了されて」に分類したものには次のようなものがある。

「フランス語の流麗さとリズム感の良さ」「フランス語の発音の響きがよく，とてもきれいに感じたため」「フランス語独特の発音の調子や美しさにひかれて」等々。

「英語に比較的似ていると思って」に分類したものには次のようなものがある。

「今まで自分が学んできた英語に最も近いのではないかと感じた」「英語と共通している文法事項が多いと思ったから」等々。

「文献・資料などを読みたかった」に分類したものには次のようなものがある。

「フランスの詩や小説等が読めるようになりたいと思ったので」「これから自分が必要とするかも知れない文献や資料などはすべて英語だけだとは限らず、フランス語で書かれているものも読めるように実力を付けたいと思って」等々。

「以前フランス語に触れたことがある」に分類したものに次のようなものがある。

「入学する以前にフランス語をわずかだがやっていたので」「中学生の時にフランス語のラジオ講座を聞いたことがあったので」等々。

「その他」に分類したものには次のようなものがある。

「女子が多いと思って」「ただ何となく」「やさしそうだから」「友だちがとったので」「単位をとりやすいと聞いたので」等々。

以上のようにフランス語を選んだ動機・目的を見てきたわけであるが、動機・目的も語学の学習には大切な要因であり、多くの学生には、自分なりに頭の中ではしっかりした動機づけと目的があることが数字上では裏付けられたと思う。ただ現実にはその動機なり目的が、学習意欲に結びついていない学生がたくさん存在していることが問題であると指摘できる。このような学生には、い

かにフランス語の時間数を増やしても、またすぐれた教材、その他を利用して、彼らにフランス語の力を付けることも、学習意欲をかき立てることも、なかなか困難なことではないかと考えられる。また、学習に対する意欲差があまりにもある学生たちが同一クラスで学んでいることにも問題があると思う。これが語学の授業のスムーズな進行を妨げているわけであり、動機・目的がしっかりしており、同時に学習意欲もある学生に対して被害を及ぼしているし、時にはそうした学生をも無気力にしてしまいかねないと考えられるのである。

3. この時期まで学んだ段階でのフランス語に関しお聞きしますので、それぞれについて意見をお聞かせ下さい。

(1)発音

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
むずかしい	77.6	70.8	81.4	82.5	76.0	83.7
やさしい	4.3	6.8	3.0	2.3	5.3	0.7
どちらともいえない	18.1	22.3	15.6	15.2	18.8	15.6

予想通り、「むずかしい」とする者が、全体、学校、男女別でも高率を示している。

(2)具体的に、文を読む際にどの程度ですか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
ほぼ完全にできる	1.2	3.0	0.0	0.0	1.5	0.0
あまり間違わない	15.7	20.8	13.9	11.1	16.6	12.2
よく間違える	55.6	60.2	52.7	52.5	54.6	59.2
全く駄目	27.6	15.9	33.3	36.4	27.3	28.6

全体、学校別、男女別でも「よく間違える」が最も多い。

全体の平均では、「よく間違える」が55.6%、次に「全く駄目」の27.6%が続いている。両者を合わせると83.2%となり、実に8割強の学生が発音に苦し

んでいるわけである。

学校別に見るならば、学校間によりかなりの差異が認められる。

「よく間違える」と「全く駄目」を合計した数字を学校別に見ると、次のようになる。早稲田は76.1%, 明治86%, 学芸88.9%である。

男女別でも、両者には差異が認められる。

フランス語を選んだ動機・目的の男女別ですで見たとように、数字上では男子よりも女子の方が動機・目的がしっかりしているという結果であり、更にその結果が学習意欲と直接結びつかないことは先に指摘した通りである。ここでも同じような傾向が見られるわけである。「よく間違える」の女子の数字(59.2%)は、全体、学校別、男子の同じ項の数字に比べて上位にある。また、「ほぼ完全にできる」は0%であり、「あまり間違わない」と「全く駄目」の数字も、全体、学校別、男子と比べても決して良いとは言えない。

「よく間違える」と「全く駄目」を合計すると、男子では81.9%, 女子では87.8%となり、「ほぼ完全にできる」と「あまり間違わない」を合計すると、男子では18.1%, 女子では12.2%である。

実際に学習意欲が本物なものであるならば、発音に関しても、女子は、全体、学校別、男子に比べてもう少し数字的によくなっていいわけである。やはり、動機・目的が、かなり具体的でしっかりしていても、それが学習意欲に完全に結びつくわけではなく、完全に結びつく学習者の数は、かなり少ないことを示していると考えられる。こうした傾向は、全体、学校別でも見られるわけであるが、男女別の場合が、最もはっきりと見られたので、以上のように少し詳しく述べたわけである。

このことは「ほぼ完全にできる」と「あまり間違わない」の率があまりにも低いことから裏付けられよう。

(3)よく間違える, 全く駄目に○をした方は, 単語をどのように覚えていくのですか。

[よく間違えると答えた者]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
英語読みで	22.0	19.2	21.4	26.7	21.4	24.1
ローマ字読みで	15.0	15.9	19.4	9.5	16.4	10.1
ただ書くだけ	13.1	19.2	7.8	9.5	13.9	10.1
適当に	36.2	34.4	35.9	39.0	33.6	45.6
眺めることで	17.8	16.6	20.4	17.1	17.9	17.7

[全く駄目と答えた者]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
英語読みで	19.1	22.0	21.2	15.8	21.1	12.2
ローマ字読みで	14.2	9.8	16.7	14.5	12.0	22.0
ただ書くだけ	8.2	4.9	6.1	11.8	8.5	7.3
適当に	45.4	51.2	39.4	47.4	45.1	46.3
眺めることで	15.8	17.1	19.7	11.8	16.9	12.2

[よく間違える], [全く駄目] と回答した学習者の調査結果を総合して簡単に述べてみることにする。

全体, 学校, 男女別, いずれの場合でも, 率の高い順に順位を付けてみると次のようになる。

1. 適当に
2. 英語読みで
3. 眺めることで
4. ローマ字読みで
5. ただ書くだけ。

「適当に」, すなわち各自がいろいろ工夫して単語を覚えているわけであり, また2位に「英語読み」が来ていることを見るならば, 学生たちの頭から英語の習慣, すなわち英語の読み方が抜けていないことを示している。

また, 「眺めることで」が3位に来ているのは, テレビ, 漫画相手に育った世代のせいかと考えられる。

こうした方法で覚えようとしている学生にとっては単語を正確に覚えること

は困難であり、フランス語学習への意欲が輪をかけて落ちていくことが充分想像できる。こうした学生にはまず単語をカタカナ書きによって覚えるようにさせた方が良いのではないだろうか。外国語の発音をカタカナ書きで表記すること自体に無理があることは十分承知しているわけだが、学生の現状を考慮するならば、カタカナ書きしてある入門者用の辞書類を持たせるのもやむをえないのではないか。そうした辞書を使用することで厳密に言うならば発音が不正確で、同時に日本語に近い読み方になると思うが、それでも無理した自己流の単語の覚え方よりも、能率的であり原音に近い発音になると思う。

とにかく、発音が十分でない学生には動詞の活用、version, lecture 等で、文字の下に発音記号を書かせ、時にはその下に更にカタカナをふることをも指導してもよいのではないかと考える。

#### (4)文法

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
むずかしい	74.9	73.7	79.7	71.8	74.6	75.9
やさしい	3.0	4.6	2.0	1.9	3.4	1.4
どちらともいえない	22.1	21.6	18.3	26.3	21.9	22.8

発音と同じように、全体の平均、学校別、男女別でも第1位は、「むずかしい」であり、かなりの高い数値である。

各々の項目別の数値を全体、学校別、男女別に見ても大きな差異は認められない。

#### [文法がむずかしいとした理由]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
動詞変化	36.0	39.9	35.7	31.7	35.2	38.6
文法が細かい	35.8	41.1	34.9	30.2	35.2	37.6
英語をやってきたので	15.8	12.5	14.0	21.6	14.9	18.8
勉強不足	12.6	10.1	10.9	17.3	11.6	15.8

授業ペースが早い	6.0	6.0	4.7	7.2	5.7	6.9
その他	7.1	6.5	4.7	10.1	7.5	5.9

全体の平均では1位に「動詞変化」(36%)そして2位に「文法が細かい」(35.8%)がきており、2つの理由の率が伯仲している。学校別、男女別でも全体の平均と同様な傾向を見せているがその差はほとんど無いといえる。

3位には、全体の平均、学校別、女子では「英語をやってきたので」がきており、男子は「勉強不足」となっている。

[文法がやさしいとした理由]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
英語をやってきたので	38.9	41.7	50.0	25.0	43.8	0.0
規則性があるから	55.6	58.3	0.0	75.0	50.0	100
その他	11.1	8.3	50.0	0.0	12.5	0.0

全体の平均では「規則性があるから」(55.6%)が最も多く、次いで「英語をやってきたので」(38.9%)が続く。

学校別では、早稲田の場合、全体の場合と傾向は同じであり「規則性があるから」(58.3%)、「英語をやってきたので」(41.7%)が続く。学芸の場合は、「規則性があるから」が75%と率が高く、「英語をやってきたので」が25%と率が低いのが特徴となっている。明治の場合は、他2校と全く違い、「規則性があるから」は0%であり、「英語をやってきたので」が50%、「その他」が50%である。

男女別では、男子が「英語をやってきたので」(43.8%)、「規則性があるから」(50%)と答えている。一方、女子は「英語をやってきたので」(0%)、「規則性があるから」(100%)と答えていて、男女間に有意の差が認められる。

〔文法がどちらともいえないとした理由〕

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
動詞変化	9.4	10.0	9.1	9.1	10.0	7.7
理解してしまえばやさしい	17.9	20.0	4.5	22.7	16.3	23.1
初めて学ぶのだから	13.2	15.0	36.4	0.0	17.5	0.0
文法が細かい	7.5	10.0	4.5	6.8	7.5	7.7
英語をやってきたので	32.1	22.5	31.8	40.9	28.8	42.3
勉強不足	26.4	27.5	18.2	29.5	23.8	34.6
その他	3.8	5.0	0.0	4.5	3.8	3.8

全体の平均では、「英語をやってきたので」(32.1%)が最も多く、次いで「勉強不足」(26.4%)が続く。

「動詞変化」は9.4%、「文法が細かい」は7.5%と率が低いのが特徴といえる。

学校別に見ると、早稲田では、「勉強不足」(27.5%)が最も多く、次いで「英語をやってきたので」(22.5%)が続く。明治では、「初めて学ぶのだから」(36.4%)が最も多く、次いで「英語をやってきたので」(31.8%)となっている。学芸では、「英語をやってきたので」(40.9%)が他校に比べても高い率を示し、次いで「勉強不足」(29.5%)が続いている。

男女別を見るならば、1位と2位の順位は同じであるが、両者にはかなりの差が認められる。1位は「英語をやってきたので」(男子28.8%、女子42.3%)、2位は「勉強不足」(男子23.8%、女子34.6%)となっている。

## 〔参考〕

以下に文法の記述欄に見られた主な内容を紹介しておく。

〔やさしい〕と答えた者の理由「英語をやってきたので」に見られた内容：「英語の文法がある程度身につけていけば、これに応用させていけばよいから」

「英語とちがった項目もあるが、英語をもとにして考えることができるので

楽である」

「英語をやってきたので、今のところあまり苦労していない。覚えることさえしっかり押さえればついてゆける」

「規則性があるから」に見られた内容：

「確かに規則がめんどくさいと感じてしまうが、覚えてしまえば逆にやさしい」

「文法に規則性があり、数学のようなものだから」

「文法でも動詞でも、例外を除けば規則的だから」

「どちらともいえない」と答えた者の理由「理解してしまえばやさしい」に見られた内容：

「わりと規則的であるし、時間をかけて1つ1つやっていけば、それほど難しくないが、ただ理解するのに時間がかかる」

「おぼえるのは大変であるが、規則的であり、理解してしまえばやさしい」

「英語をやってきたので」に見られた内容：

「英語を長年やってきたので、英語との違いをはっきりさせれば理解しやすい」

「英語を意識しながら勉強し、英語の角度から仏語を見ることで理解しているつもりであるが、違った点に出会うとわからなくなってしまいがちだが、逆に英語とのちがいははっきりさせればわかりやすいともいえる」

「むずかしい」と答えた者の理由「英語をやってきたので」に見られた内容：

「英語と区別して考えるのがむずかしい」

「英語の文法とは違った部分が多すぎて、英文法に慣れてしまっているので、

とまどって理解しにくくなってしまう」

「英語の文法と混同してしまう」

「動詞変化」及び「文法が細かい」と答えた者は「むずかしい」「どちらともいえない」両方に存在し、それらの内容に差がなかったのでひとつにして以下にそれらの内容を取り上げることにする。

「動詞変化」に見られた内容：

「動詞の変化が複雑で、変化したものを辞書で捜しても見つからないことが多いし、元の形が何であるか見当もつかないものが多いから」

「人称ごとに動詞が変化し、時制で更に変化するのは苦しい」

「動詞の変化は見るだけで嘔吐をもよおす」

「動詞の変化表を見ただけで頭が痛くなる」

「文法が細かい」に見られた内容：

「何しろ文法がごちゃごちゃしていて、気をつけなくてはいけないことが多すぎる」

「細かいいきまりが多く、パーフェクトに問題がとけるといことが少ない」

「文法規則がありすぎる上に、例外も多すぎてこんがらがってしまう」

このようにフランス語の文法について見てきたわけであるが、授業時間数が限られていることなどにより、いきおい授業ペースが早くなるといった要因以上に、フランス語学習者の大きな障害、つまづきの原因になっているのが、やはり、「動詞変化」と「文法が細かい」ことの二つであることが改めて確認できたわけであり、この二つを中心に種々の要因が重なり合い、学生たちにとってフランス語がむずかしいものとなっているのである。

フランス語の文法が「やさしい」と答えた者は、長年学んできた英語文法の

基礎知識をフランス語文法の理解と整理、習得に十分に流用し、活用しているのである。英語文法を流用、活用することができるかどうか、フランス語文法の理解を助けてくれる大きな鍵になっていることも数字的に裏付けられたわけである。ある学生がフランス語の文法は数学のようなものだからと書いていたが、そのあたりまで理解がすすめば、1つのハードルは越えられたと判断できるだろう。

動詞の活用にしても、複雑でありながらも単純化されたものがあるという理解に達すればやはり動詞の変化の克服に大幅に近づいたといえる。

教科書も年々創意工夫がされて、初学者たちが、文法と動詞変化の仕組みをなるべく早く理解できるようにと配慮されてきてはいるものの、更なる教科書作りの研究が必要なのではないかと思われる。そして教師とすれば、各学校の生徒の能力に見合った教科書、盛りだくさんではなく整理されてスッキリしながらも、重要な文法項目や動詞変化を中心に分かり易く種々の工夫のされた教科書を選ぶことが当然ながら必要であると考えられる。

#### 4. (1)現在のフランス語の授業時間数は適当ですか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
多 い	11.6	17.7	10.0	5.6	13.6	4.1
少 ない	19.5	10.5	11.4	38.0	14.6	37.4
適 当	69.0	71.8	78.6	56.5	71.8	58.5

全体の平均、学校別、男女別でも「適当」が最も多い。だが学校別、男女別を見るならばかなりの差異が認められる。

学芸に「少ない」と答えた率が他校より高いのは、フランス語の授業が週1コマ100分であることによると考えられる。

この調査をした11月という時期にさしかかると、多くの学生にとり、第2外国語の授業がかなり負担になっており、また教員にしても、残り少なくなった時

間数を考慮し、できるならば何とか教科書を一通り終えようとするものが多くなるので、ますます学生にとっては嫌気がさしてくる。実際には、新しい外国語の基礎的な学力を身に付けるには、時間数が足りないと思っているにもかかわらず、フランス語について負担と嫌気を感じていることにより「適当」と答えている学生がかなりいるのではないかと考えられる。理想と現実の差がこの回答に反映されていると思える。

(2)多い、少ないのいずれかに○をされた方は、1回の授業につきどの位の時間が適当だと思われますか。

(3)あなたが(2)で答えられた時間で1週に何回が適当だと思われますか。

ここでは(2)と(3)を一緒にして結果を見ることにする。

「多い」と答えた者の時間と回数

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
0時間0回	7.6	2.1	15.0	16.7	8.2	0.0
50分1回	3.8	6.4	0.0	0.0	4.1	0.0
50分2回	5.1	6.4	0.0	8.3	5.5	0.0
60分1回	40.5	42.6	50.0	16.7	41.1	33.3
60分2回	16.5	14.9	15.0	25.0	15.1	33.3
90分1回	16.5	19.1	20.0	0.0	17.8	0.0
その他	10.1	8.5	0.0	33.3	8.2	33.3

「多い」とした学生の率は全体から見れば低い率であったわけであったが、この結果を見るならば、フランス語を学ぶことにすっかり意欲をなくしている者、あるいは語学に対して極めて消極的で、単に表面的に触れるだけで良しとしている者たちと考えられよう。

全体の平均では、「60分1回」とするものが40.5%で最も多い。また学校、男女別でもかなりの差異が認められる。

## 「少ない」と答えた者の時間と回数

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
50分3回	3.0	0.0	0.0	4.9	2.6	3.7
50分4回	2.3	7.1	0.0	1.2	3.8	0.0
60分3回	27.3	10.7	13.0	37.0	23.1	33.3
60分4回	8.3	10.7	21.7	3.7	10.3	5.6
60分5回	4.5	10.7	4.3	2.5	5.1	3.7
70分3回	3.0	7.1	0.0	2.5	2.6	3.7
80分2回	3.8	0.0	0.0	6.2	2.6	5.6
90分2回	5.3	0.0	0.0	8.6	2.6	9.3
90分3回	12.1	21.4	17.4	7.4	14.1	9.3
90分4回	6.1	17.9	13.0	0.0	7.7	3.7
その他	24.2	14.3	30.4	25.9	25.6	22.2

時間と回数が以上のように分散しているので、数値の大きい上位3番目(「その他」を除く)までを挙げてみることにする。

順位	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
1	60分3回 27.3	90分3回 21.4	60分4回 21.7	60分3回 37.0	60分3回 23.1	60分3回 33.3
2	90分3回 12.1	90分4回 17.9	90分3回 17.4	90分2回 8.6	90分3回 14.1	90分2回 90分3回 各 9.3
3	60分4回 8.3	60分3回 60分4回 60分5回 各 10.7	60分3回 90分4回 各 13.0	90分3回 7.4	60分4回 10.3	60分4回 80分2回 各 5.6

全体の平均では、「60分3回」(27.3%)が最も多いが、これは現状の180分と変わらないが(学芸を除く)、時間を短かくして回数を増やして欲しいと思っている学生の気持を現わしているといえる。次には、90分3回(12.1%)、そして60分4回(8.3%)と続いている。

学校別に見ると差異が見られ、とりわけ学芸が私大2校と異なる傾向を見せているのは、現在の時間数が、週1コマ100分という授業体制によっているた

めと考えられる。

男女別では、男子より女子の方が意欲的なことが感じられる。

全体の傾向とすれば、回数の重視が見られる。トータルの時間数が180分としても、60分で3回授業を受けるならば、実質的に勉強したという実感は、90分2回よりもずっと得られよう。

実際、一般的に週2コマ90分~100分という授業は、語学教育に適していると考えられないし、すでに発音と文法で見てきたように、フランス語に消化不良を起こしている学生にとってこの授業形態は苦痛であろう。

集中力、忍耐力、持続力に欠けている学生が増えているので、学生の精神的な面から考えてみても、今日の授業形態からこの調査結果に従い、例えば60分3回に移行するようなことも真剣に考えなくてはならないと思うのである。現在より授業時間を短縮し、回数を増やすことは、学生にとって時間的にも精神的な面から考えても適当であるし、能率も上がり、学習意欲を喚起し、学力向上につながると考えられる。

##### 5. 授業進度についてお聞きします。

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
早すぎる	21.4	29.9	15.7	16.4	23.1	15.2
早い	36.8	39.5	39.1	31.3	37.0	35.9
遅すぎる	0.1	0.4	0.0	0.0	0.2	0.0
遅い	1.9	0.4	1.5	4.2	1.7	2.8
適当	39.7	29.9	43.7	48.1	38.0	46.2

全体の平均では「適当」(39.7%)が最も多く、次に「早い」(36.8%)が続く。

学校別に見ると、かなりの差異が認められる。早稲田では、「早い」(39.5%)が最も多く、明治では「適当」(43.7%)、学芸も明治と同様に「適当」が最も多く48.1%を占めている。

男女別に目を向けると、男子では、「適当」(38%)、「早い」(37%)とがほ

ほ同率であり、女子では、「適当」(46.2%)が最も多く、次いで「早い」(35.9%)と続いている。

次に、「早すぎる」と「早い」と答えた者を合計すると、全体では58.2%、学校別に見ると、早稲田69.4%、明治54.8%、学芸47.7%となる。

学芸の数値が他に比べて低いのは、1週1コマのために教科書を1年間で終らせようとせず、無理をせずに授業を進めていることによるものと考えられる。

男女別では、「早すぎる」と「早い」を合計すると、男子は60.1%、女子51.1%であり、男子の方が、女子よりも授業進度が早めであると感じている。

授業の進度が比較的早いと感じている学生がこのように多いわけであるが、実際、教える側の教員とすれば、年間の授業回数を考慮して授業を進めていくわけであるが、ページ数が多く、盛り沢山の教科書ではかなり辛いことを感じる方が多いのである。

授業の進度についての学生の受け止め方は、その年の教科書の程度と内容、授業の雰囲気、教室環境、授業時間数、学生自身の語学に対する意欲と勉強時間、また、教員の授業に対する姿勢、情熱なども複雑にからまって判断を下しているわけである。結論を下すならば、全体的な傾向とすれば「早い」と学生たちが思っている。教える側の教員にすれば、授業の進め方の工夫、慎重な教科書の選択などがなお一層必要であろうかと考えられる。

6. フランス語の勉強(特に予習と復習)に1週間に平均どのくらい時間をかけていますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
全くしない	17.4	14.9	26.3	12.1	20.2	7.0
30分未満	12.3	12.2	6.8	17.5	10.4	19.0
30分以上～1時間台	25.7	16.5	29.5	33.5	23.2	34.5
2時間台	21.2	22.4	19.5	21.4	20.8	22.5
3時間台	10.9	11.8	11.1	9.7	11.4	9.2

4時間台	8.3	15.3	3.7	3.9	9.0	5.6
5時間台	2.0	3.1	1.6	1.0	2.4	0.7
6時間以上	2.3	3.9	1.6	1.0	2.6	1.4

数値の高い順番に3位までをまとめると次のようになる。

順位	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
1	30分以上～ 1時間台 25.7	2時間台 22.4	30分以上～ 1時間台 29.5	30分以上～ 1時間台 33.5	30分以上～ 1時間台 23.2	30分以上～ 1時間台 34.5
2	2時間台 21.2	30分以上～ 1時間台 16.5	全くしない 26.3	2時間台 21.4	2時間台 20.8	2時間台 22.5
3	全くしない 17.4	4時間台 15.3	2時間台 19.5	30分未満 17.5	全くしない 20.2	30分未満 19.0

全体の平均では「30分以上～1時間台」(25.7%)が最も多く、次に「2時間台」(21.2%)が続く。

学校別ではかなり差が認められる。

早稲田では「2時間台」(22.4%)が最も多く、次いで「30分以上～1時間台」(16.5%)が続き、明治では、「30分以上～1時間台が最も多く」(29.5%)、次いで「全くしない」(26.3%)が続いている。学芸では「30分以上～1時間台」(33.5%)が最も多く、次いで「2時間台」(21.4%)となっている。

では、次に「全くしない」と「30分未満」を合わせてみると、全体では29.7%、早稲田27.1%、明治33.1%、学芸29.6%である。

男女別でも、かなりの差異が認められる。男子で最も多いのが、「30分以上～1時間台」(23.2%)、次いで「2時間台」(20.8%)が続く。女子では「30分以上～1時間台」(34.5%)が最も多く、次いで「2時間台」(22.5%)となっている。また、「全くしない」と「30分未満」を合計すると、男子の場合、30.6%、女子の場合、26%である。男子と女子を比べてみると、女子の方が男子よりも勉強時間が長い傾向にある。

しかし、3時間以上の勉強時間の男女別を見るならば、すなわち3時間台（男子11.4%、女子9.2%）、4時間台（男子9%、女子5.6%）、5時間台（男子2.4%、女子0.7%）、6時間台（男子2.6%、女子1.4%）であり、男子の方が女子に比べて、じっくり時間をかけて勉強していることがうかがえる。

全体的に男女を私なりに比較すれば、男子の方が成績に関係なく本気でやろうとしている学生が多く、女子はほどほどにやっぺいこうとしている傾向が強いのではないかと考えられる。

7. (1)フランス語の1クラス当りの現在の受講人員はどう思われますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
非常に多い	1.5	0.0	3.0	1.9	1.3	2.0
多 い	11.1	6.8	13.4	14.4	9.9	15.6
適 当	79.3	84.5	81.6	70.8	80.0	76.9
少ない	8.1	8.7	2.0	13.0	8.8	5.4

全体の平均、学校別、男女別でも、「適当」と答えた者が多い。

全体の平均では「適当」が79.3%、およそ8割の学生になる。

学校別に見ると、明治の場合に「多い」が13.4%、「非常に多い」3%であり、合計すると16.4%となり、学芸の場合には、「多い」が14.4%、「非常に多い」1.9%であり、合計すると16.3%となり両校はほぼ類似している。明治の場合は、クラスの平均人数が多いことによるものと考えられる。学芸の場合は、クラスの平均人数が専攻により差があり、それ故に「非常に多い」と「多い」と答えたものが合計16.3%、また「少ない」と答えたものが13%と他2校とは異なる傾向が見られるのである。

しかし、各学校とも「適当」としているものが最も多かったわけであるが、早稲田では84.5%、明治81.6%、学芸70.8%であり、私の予想では「多い」と答える学生がもっといるものと考えていた。すなわち教師としての私が考える

理想の人数と差が出て来てしまったわけである。学生の側に立って考えてみれば、授業の人数に慣れてしまい、人数の多さを感じなくなってしまうか、あるいはあまり目立たないように、消極的に授業にのぞみたいと望んでいるからとも考えられる。

(2)(1)の質問に、非常に多い、多いに○をされた方は、およそ何人位が適当と思われますか。

〔非常に多いと答えた者の理想の人数〕

人数	合 計	明 治	学 芸	男	女
10 人	30.0	16.7	50.0	14.3	66.7
15 人	20.0	16.7	25.0	28.6	0.0
20 人	20.0	16.7	25.0	14.3	33.3
25 人	10.0	16.7	0.0	14.3	0.0
30 人	10.0	16.7	0.0	14.3	0.0
その他	10.0	16.7	0.0	14.3	0.0

〔多いと答えた者の理想の人数〕

人数	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
10 人	12.0	11.1	7.4	16.7	9.4	18.2
15 人	8.0	16.7	3.7	6.7	9.4	4.5
20 人	52.0	55.6	48.1	53.3	54.7	45.5
25 人	2.7	5.6	0.0	3.3	3.8	0.0
30 人	18.7	5.6	29.6	16.7	15.1	27.3
その他	6.7	5.6	11.1	3.3	7.5	4.5

〔非常に多い〕と答えた者を見るならば、全体の平均では、クラスの理想人数を10人としており、〔多い〕と答えた者を見るならば20人を理想人数としている。

1クラスの定員人数は少ない方が良いわけであるが、学生自身、10～20人程度が最も勉強するのにふさわしいことを膚で感じていることが正しく数字に出

てきたものと考えられる。

8. (1)フランス語学習のために授業外で L. L. 教室(設備)を利用したことがありますか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
あ る	11.3	20.0	10.4	1.4	13.1	4.8
な い	88.7	80.0	89.6	98.6	86.9	95.2

全体の平均では、「ない」と答えたものが88.7%と最も多く、大学別、男女別でも「ない」と答えた者が最も多い。

(2)(1)で「ある」に○をされた方は何回ぐらい利用しましたか。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
1 回	25.4	33.3	10.0	0.0	28.1	0.0
2 回	12.7	18.8	0.0	0.0	10.9	28.6
3 回	16.9	20.8	5.0	33.3	15.6	28.6
4 回	5.6	4.2	5.0	33.3	4.7	14.3
5 回	5.6	6.3	0.0	33.3	3.1	28.6
6回以上	33.8	16.7	80.0	0.0	37.5	0.0

全体の平均では、利用回数は「6回以上」(33.8%)が最も多く、2位に「1回」(25.4%)、3位に「3回」(16.9%)と続いている。

L. L. を利用した学生の数は、全体から見るとごく少数であり、更にその少数の中にあり、6回以上利用した熱意ある学生が33.8%もいたことを心に留めておく必要がある。

また一方では、L. L. を利用したにもかかわらず、全体の平均では1回だけ利用した者が25.4%、2回～5回利用しただけの者が合計で40.8%にもなることに注意しておきたいし、できるならば、こうした学生たちが、何度も足を運びたいという気持ちにさせるきめ細かな指導と配慮が教員と学校側に求められるのである。また、教員とすれば、学生が一人で楽しく学べるような授業

に即したテープをはじめとする教材の作成にもっと積極的に取り組むべきだと考える。

大学別に L. L. の利用状況を見るならば、早稲田では、「1回」(33.3%)が最も多く、次いで「6回以上」(16.7%)が続く。参考までに昭和60年度の早稲田商学部の L. L. 自習室におけるフランス語のカセットテープの利用状況を見ることにする。

月 別		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月
カ セ ー ッ ト	備 付 え け	6人	28人	37人	7人	2人	6人	1人	2人	4人
	持 込 み	0	0	12人	0	0	0	0	0	0

備え付けのカセットテープ（主に、その年度に使用している教科書テープ）の使用状況を見るならば、4月から7月までの前期には78人が利用し、9月から1月までの後期には15人しか利用していない、持ち込みテープとは、学生の個人所有のテープ（教科書テープ、あるいはラジオ講座やその他のテープ）であり、その利用は前期6月に12人利用しているにすぎない。

こうした使用状況を見るならば、新学期当初のフランス語に対する学生の意欲がいかにか長く続かないかを読みとることができる。

明治の場合に、「6回以上」の利用者が80%と多いのは、L. L. の利用者サービスが他2校に比べて充実していることによるものと考えられる。

男女別では、男子の場合、「6回以上」の利用者が37.5%と最も多い。女子の場合には「6回以上」利用した者は0%であり、男子の方が L. L. の利用に対する意欲が幾分強いと言えよう。

## 9. 授業以外でフランス語を学習するのに今までに何を利用しましたか。

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
日仏学院, アテネ・フランセ, その他の教育機関	8 (3.7)	2 (2.4)	1 (3.6)	5 (4.8)	4 (2.9)	4 (5.0)
ラジオ講座	66 (30.3)	27 (31.8)	11 (39.3)	28 (26.7)	48 (34.8)	18 (22.5)
テレビ講座	56 (25.7)	22 (25.9)	10 (35.7)	24 (22.9)	40 (29.0)	16 (20.0)
教科書テープ	97 (44.5)	38 (44.7)	1 (3.6)	58 (55.2)	42 (30.4)	55 (68.8)
その他のテープ, ビデオ, レ コード	23 (10.6)	9 (10.6)	5 (17.9)	9 (8.6)	22 (15.9)	1 (1.3)
	218人	85人	28人	105人	138人	80人

(上段は人数)

全体の平均では、「教科書テープ」(97人)が最も多く、2位には「ラジオ講座」(66人)、3位には「テレビ講座」(56人)が続く。

学校別では、早稲田は、全体の平均と同じような傾向を見せており、1位「教科書テープ」(38人)、2位「ラジオ講座」(27人)、3位「テレビ講座」(22人)となっている。

明治は、「ラジオ講座」(11人)が最も多く、次に「テレビ講座」(10人)、3位には「その他のテープ、ビデオ、レコード」(5人)と続く。他2校で利用率の高い「教科書テープ」の利用は1人と極めて低い。

学芸は、「教科書テープ」(58人)が最も多く、この利用は3校の中でも一番高くなっている。2位は「ラジオ講座」(28人)、3位「テレビ講座」(24人)である。

男女別では、男子では、「ラジオ講座」(48人)の利用が一番多く、女子では「教科書テープ」の利用が一番多く、55人であり、男子に比べて利用率が高いのが特徴である。男子では、2位に「教科書テープ」(42人)、3位に「テレビ

講座」(40人)が続く。女子では2位に「ラジオ講座」(18人)、3位に「テレビ講座」(16人)が続いている。

10. 授業以外でフランス語を学習するのに現在何を利用してありますか。

	合計	早稲田	明治	学芸	男	女
日仏学院, アテネ・フランセ, その他の教育機関	5 (3.3)	2 (4.2)	1 (5.6)	2 (2.4)	3 (3.7)	2 (2.9)
ラジオ講座	28 (18.5)	10 (20.8)	7 (38.9)	11 (12.9)	22 (26.8)	6 (8.7)
テレビ講座	24 (15.9)	10 (20.8)	5 (27.8)	9 (10.6)	16 (19.5)	8 (11.6)
教科書テープ	89 (58.9)	22 (45.8)	2 (11.1)	65 (76.5)	30 (36.6)	59 (85.5)
その他のテープ, ビデオ, レ コード	19 (12.6)	7 (14.6)	4 (22.2)	8 (9.4)	17 (20.7)	2 (2.9)
	151人	48人	18人	85人	82人	69人

(上段は人数)

質問9.と質問10.では時間的に差があるわけである。学生たちは初級フランス語を学びはじめた頃、第2外国語のフランス語に期待と不安を持ちながらも、何とか実力を自分なりに付けたいと思い希望に満ちあふれている。しかし夏休みを過ぎ秋が深まるにつれ、新学期初めの頃とうって変わり、何か無気力で冷めた学生が増えてくるのを教場で感じるのもこのアンケートの調査時期あたりではなかろうか。私とすれば、授業早々の頃の学習意欲を学生たちに持続してもらい、更に一層努力してもらいたいと常に期待しているわけであるが、思うようにならず、多くの学生が残念ながら脱落してしまうのである。そうした学生の実態が確認されたのである。

質問9.での合計人数は218人であり、アンケート全回答数の31.9%であったものが、この調査の時点では151人に減ってしまい、これは全回答者数の22.1%にあたる。しかし、1人の学生が複数のものを利用した場合もあるわけで、

実際に利用した人数は、合計人数を下回っているわけである。しかしながら、約3割の学生が課外学習にいろいろな手段を利用していたわけであり、アンケートの時点でも約2割の学生が同様に存在していることは、私個人の考えとすれば、まるでとらえどころのない、また学習意欲に乏しい多くの学生の実状を考慮するならば評価に値するのではないかと思う。とりわけ、「日仏学院、アテネ・フランセ、その他の教育機関」を利用している学生は、学校以外のところで何よりもまずフランス語の力をつけたいと思っている学生であり、各学校にごく少人数いたわけである。ちなみにこの調査時点で早稲田2人、明治1人（この人数は質問9.での人数と変らない）、学芸2人（質問9.では5人であり、3人減）である。すなわち、他の利用手段では、かなり人数が減っているのが全体として目立つわけであるが、専門学校のようなところでフランス語を意欲的に学ぼうとしている学生には第2外国語に対する強い勉学の姿勢がうかがえるとと思われる。

また、全体の平均で最も多いのが「教科書テープ」の利用であったわけであるが、教科書テープについて考えてみたい。

今では、ほとんどの教科書にテープが付いているので、学生がそれを必要とするならば手に入られるわけである。授業でも、私自身、とりわけ発音練習の時期から後期の初めにかけて一番よくテープを利用しているわけであるが、2、3回聴かせて、その後、指導は私自身で行うことが普通である。確かに、良いテープを使用することができて、必ずしもそれが教室で利用するのに適しているとはいえないものが多い。まず自由にスピードを変えたり、必要ならば繰り返したいところもあるわけで、そういう操作をするのには、手間がかかるし、意外に時間がかかってしまう。それ故にいきおい、自分の肉声で行う方がずっと能率的かつ効果的だと思いテープを使用する回数が授業回数を重ねるごとに少なくなってしまうことが多いのである。多くのテープは、ある程度全員が発音できるようになってから、発音、音読練習の仕上げには向くが、授業に

は適していないものが多いのではないかと思える。できるならば、教室で使用するをもっと念頭に入れた教室用テープ、更に、少なくとも初めてフランス語を学ぶ学習者である学生の立場に立ち、彼らが自宅で使うことを考えた自習用テープができてよいのではないかと考える。極めて限られた時間数で入門期のフランス語を終えなくてはならないことから、もっと利用しやすい教科書用テープの充実と改良こそ、私たちフランス語教員がすぐに手をつけなくてはならない問題だと考える。

### 〔参考〕

質問10.の「授業以外でフランス語を学習するのに現在何を利用していますか」のその手段と、質問1.(1)の「大学で英語以外に第2外国語を学ぶ必要性についてどう考えますか」の関連性について。

	絶対必要	必要	あまり必要でない	不必要
日仏学院、アテネ・フランセ、その他の教育機関	9.5	2.7	2.3	0.0
ラジオ講座	23.8	19.2	13.6	16.7
テレビ講座	47.6	13.7	6.8	8.3
教科書テープ	42.9	63.0	63.6	50.0
その他のテープ、ビデオ、レコード	9.5	9.6	15.9	25.0

この結果を見るならば第2外国語に対する意欲のある学生は授業の時間的な不足、また実用的な学習への興味や必要度を感じていると思えるわけであり、私の日頃感じていたことが数字によって確認できたわけである。

「絶対必要」と思っている者はいろいろな手段を使い、その率も高い。ただし、「教科書テープ」の比率が、他の必要度と比べて低いのは、学校以外の所で、すでに力をつけているか、力を付けたいと思っている学生が多いとも考えられる。

「あまり必要でない」また「不必要」とした者も、第2外国語の必要性はと

もかく、個人的にフランス語をやってみたい、やっておかなくてはと思っている学生たちであろう。

11. 前期と後期の大きな試験と小さな試験（例えば、単語や動詞の活用などを含める）は、年間に何回が適当だと考えられますか。

[大きな試験]

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
0 回	6.3	4.5	5.6	9.1	6.8	4.2
1 回	16.5	14.0	22.2	14.4	18.4	9.7
2 回	72.0	74.7	66.7	73.7	68.9	83.3
3 回	3.3	4.5	4.0	1.0	3.8	1.4
4 回	1.9	2.3	1.5	1.9	2.1	1.4

全体の平均では「2回」(72%)と答えたものが最も多く、大学別、男女別でも類似した傾向を見せ、高率を示している。

では「2回」と答えた者は、小さな試験が何回ぐらいが適当かという質問についての結果は次の通りである。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
0 回	26.5	16.3	36.2	31.7	27.9	22.1
1 回	3.2	3.6	3.1	2.8	3.7	1.8
2 回	36.3	48.0	27.6	28.3	37.5	32.7
3 回	6.8	8.2	8.7	3.4	8.2	2.7
4 回	10.0	11.2	6.3	11.7	8.5	15.0
5~8回	10.7	8.2	13.4	11.7	9.9	13.3
10~12回	2.6	1.0	0.8	6.2	0.6	8.8
13回以上、毎回	3.8	3.6	3.9	4.1	3.9	3.5

全体の平均では「2回」(36.3%)が最も多く、次いで「0回」(26.5%)が続く。

学校別で見ると、早稲田では「2回」(48%)が最も多く、次いで「0

回」(16.3%)が続く。明治では「0回」(36.2%)が最も多く、次いで「2回」(27.6%)となる。学芸は明治と同様であり、「0回」(31.7%)が最も多く、次いで「2回」(28.3%)という結果である。

男女別では、男女ともに「2回」が最も多く(男子37.5%、女子32.7%)、次いで「0回」と答えた学習者が、男子では27.9%、女子22.1%となっている。

予想通り、大きな試験「2回」、小さな試験「2回」が最も多かったわけである。

次に、小さな試験を「3回」以上「13回以上及び毎回」までを合計すると全体では33.9%となり、大学別に見ると、早稲田32.2%、明治33.1%、学芸37.1%である。男女別では、男子31.1%、女子43.3%となる。

こうした結果を見て学生に好意的な評価を下すならば、男子学生は自分自身で実力を付けていきたいと考えており、一方、女子学生は学校で試験をまめにやってもらうことによって力を付けたいとする学校依存タイプと言えるであろう。

小試験は、学生が苦手としている動詞の活用に有効であり、また簡単なディクテも発音に関しての学生の関心を引き出すことに有効だと考える。それ故に、時間の許すかぎり、様々な小試験を実施すれば、当然ながら学生たちに刺激を与えることになるし、教師にとっては学生の習得度を確認できる。

私の経験では小試験の場合には、テストが終了次第、答案を交換させ、訂正させる。それをもう一度、各々の学生の元に返させ、間違いを確認させ、回収し、次の時間に返すようにする。

学生たちも比較的楽しみながら他人の答案を訂正し、また友だちが直した答案を見ることで刺激を受け、クラスが明るく活発になり、クラスとしてのまとまりが出てくることを感じている。

12. フランスという国から、具体的に何が思い浮かびますか、またはどんな関心がありますか。3つお書き下さい。

	合 計	早稲田	明 治	学 芸	男	女
映 画	16.2	15.7	26.3	7.8	18.2	9.2
料 理	25.0	21.4	21.8	32.4	21.6	36.9
ワ イ ン	22.3	23.4	21.8	21.6	23.3	19.1
ファッショ ン	22.0	22.6	19.6	23.5	19.6	30.5
音 楽	4.6	7.3	0.6	4.9	4.7	4.3
美 術	11.1	12.1	6.7	13.7	10.6	12.8
ス ポ ー ツ	6.7	6.0	6.1	7.8	8.6	0.0
文 学	5.2	4.8	2.8	7.8	4.7	7.1
歴 史	12.8	12.9	9.5	15.7	12.4	14.2
歴史上の人物	21.4	31.0	21.2	9.8	25.3	7.8
セーヌ川	37.9	37.5	39.1	37.3	37.3	39.7
記念建造物	51.7	51.6	57.5	46.6	49.6	58.9
地理・風土・農業	26.3	25.0	23.5	30.4	26.5	25.5
そ の 他	20.9	19.0	16.8	27.0	20.8	21.3

全体、大学別、男女別に、各々上位6位までを比率の高い順（「その他」を除く）に並べてみることにする。

全体の場合：

1. 記念建造物 (51.7%)
2. セーヌ川 (37.9%)
3. 地理・風土・農業 (26.3%)
4. 料理 (25%)
5. ワイン (22.3%)
6. ファッション (22%)

大学別：

早稲田の場合には

1. 記念建造物 (51.6%)
2. セーヌ川 (37.5%)

3. 歴史上の人物 (31%)
4. 地理・風土・農業 (25%)
5. ワイン (23.4%)
6. ファッション (22.6%)

明治の場合には

1. 記念建造物 (57.5%)
2. セーヌ川 (39.1%)
3. 映画 (26.3%)
4. 地理・風土・農業 (23.5%)
5. 料理 (21.8%), ワイン (21.8%)
6. 歴史上の人物 (21.2%)

学芸の場合には

1. 記念建造物 (46.6%)
2. セーヌ川 (37.3%)
3. 料理 (32.4%)
4. 地理・風土・農業 (30.4%)
5. ファッション (23.5%)
6. ワイン (21.6%)

男女別：

男子の場合には

1. 記念建造物 (49.6%)
2. セーヌ川 (37.3%)
3. 地理・風土・農業 (26.5%)
4. 歴史上の人物 (25.3%)
5. ワイン (23.3%)

## 6. 料理 (21.6%)

女子の場合には

1. 記念建造物 (58.9%)
2. セーヌ川 (39.7%)
3. 料理 (36.9%)
4. ファッション (30.5%)
5. 地理・風土・農業 (25.5%)
6. ワイン (19.1%)

学生のフランスに対するイメージは、全体、学校別、男女別、ともに1位には「記念建造物」2位には「セーヌ川」がきている。テレビ、雑誌、ポスターなどを通して日常的に日本人が目にしたたり、読んだりするものを通して出来上がったイメージ、すなわち観光名所的なものを、学生たちも同じように思いうかべているわけである。最近のブームであろうか、「料理」、「ワイン」にも関心をかなり寄せており、とりわけ、女子では、「料理」が3位に入っている。全体の平均でも、「料理」は4位、「ワイン」は5位となっている。

学校別も、全体の傾向とほぼ同じである。男女別では、男子の3位には「地理・風土・農業」4位には「歴史上の人物」であり、女子の3位には、先に見たように「料理」、4位には「ファッション」であり、男女の差異が感じられる。

では、次に最も関心の低いものを比率の低いものから順に3つまでを全体の平均でみると、最も比率の低いものは、「音楽」、次に「文学」、3番目に「スポーツ」となり、これら3つの分野は、学校別、男女別でも、その順位こそ違っているが、同じように入っている。

全体の学生の専攻分野から考えるならば、「文学」、「音楽」が下位に入っていることは、幾分理解できるわけであるが、同時に時代が確実に変わっていることを実感し、寂しさも感じるのである。私とすれば、政治とか経済、歴史など

の分野の率が、もっと上位を占めると想像していたわけである。

以上のように学生のフランスに対するイメージ、関心がつかめたわけであるがテキスト作成の場合、こうした彼らの関心をひくもの、また逆に新たなるフランス観、関心と呼びますようなものを教科書に取り入れることにより、学生を活性化し、第2外国語への意欲をかき立てることができると考える。こうした面からのテキストの研究も必要であろう。

### 結びにかえて

大学の大衆化と共に、精神的に幼い、また勉学意欲に乏しい学生が増えてきていることを実感していたわけであるが、このアンケートを通して改めてそのことを思い知らされたわけである。

このアンケートの数字の中身を私なりに分析と検討を加えてきたわけであるが、最も印象に残ったことはフランス語学習への動機と取り組みがあまりにも消極的であることである。全体的に見て、学習環境は一昔前よりずっと改善され、更に、テープ、カセット、ビデオ、辞書、入門書なども豊富で、すぐれたものが多くなっているが、それらを利用する本人自身に問題がある場合には、手のうちようがないわけである。しかし、大学と教員はこうした学生に対し、学習動機と意欲を引き出すための工夫と対策を考えることが必要ではないかと思うわけである。

今回のアンケート調査を通して、フランス語、幅広く考えるならば第2外国語がかかえている様々な問題点が浮かんできたわけであるが、私自身大きな問題点と捕えた4点を指摘したいと考える。

(1)同一クラスに、フランス語に対する学習動機がしっかりしており、なおかつ学習意欲の高い学生と、全くフランス語を学習する価値、意義を認めない学生、更にこれら両者の学生の間層ともいえる学生、すなわち語学に対し教養的な面を求める学生がいるわけである。こうした異なる学生が、同一クラスに

存在しているわけであり、どの学生にも同量、同質のフランス語教育を与えることが必要なかどうかの徹底的な討議が開始されることが望ましいと考える。更にカリキュラム編成に柔軟性を持たせ、多様化を図り、とりわけ学習動機と意欲の高い学生のフランス語の力が伸びるようなより親切で、緻密なカリキュラムを用意してもよいのではないかと提言したい。

(2)文法に関して言えば、各大学、各学部の位置づけ、目的によって異なるわけであるが、文法と授業進度の今回の結果から考えるならば、文法の目標が一般に高すぎる傾向にあるように考える。それ故に1年で初級文法を終えようとせず、1年半、場合によっては2年かけてもよいのではないかと考える。1年次に何もかも教え込むといった姿勢よりも、まず何を教えないかということも考えるべきであり、そうした教科書も増える傾向にある。しかし、文法の何を教え、何を外すかの取捨選択は、正当な根拠に基づいて行なわれなければならないと考える。

(3)授業外でのフランス語学習に教科書テープの利用をしている学生が多かったことから、あくまでもテープの利用者が全くのフランス語の初心者であることを考慮に入れた自宅学習用のテープ、また教室で利用しやすいように能率と学習効果を考慮した教室用テープの充実と改良こそ、早急に手を付けるべきことだと考える。

(4)学生のフランスに対するイメージ、関心を把握することは、とりわけ中級の教科書の作成、あるいは選択の際などに利用できるのである。学生の関心をひくもの、思い出すものが内容に盛られている教科書を利用することで、学習する学生の力として利用し、学力向上に生かせることができると考えられる。

また、逆に教師の判断で学生の関心のないもの、薄いものが内容に含まれている教科書を作成したり、選択することにより、逆に新たなるフランス観、あるいは興味などを呼び起こし、学生たちを活性化し、第2外国語への意欲をか

き立てることができる。と考える。

例えば、私自身、他の先生方との共編という形で、朝日出版社より、スイス人女史 Clarisse Desiles の手になる日本旅行記『日本との出会い』(A la rencontre du Japon) (1981年)を利用して中級用の教科書『北海道の春』(Printemps en Hokkaido), 『九州の秋』(Automne à Kyushu, 両編共1984年), 『魅惑の長崎』(Fascinante Nagasaki, 1985年)を出版したわけであるが、そのねらいは以下のようなことである。

この本の筆者の文章には、口語に近い文体、スピディィーな筆運び、奔放な比喻、幾分か饒舌な口調などがあり、折目正しい言葉使いや文法の規範にうまく収まった構文に触れてきた学生には読みづらさ、日本語にうまくできないもどかしさを感じさせてしまうのである。しかし、フランス語の世界がいわゆる古典的な文章だけで構築されているわけではなく、むしろ、現代フランス語というものは、多少とも本書のような傾向にあるのである。こうした意味で、学生になるべく早い時期に現代フランス語に接してもらうことを願ったわけである。

また、すでに本論で見てきたように、第2外国語の必要性、またはフランス語の選択動機において学生たちの脳裡に国際性ということがあったわけである。国際社会におけるわが国の政治的・経済的比重が増して来て以来、とりわけ欧米において日本への関心が高まり、様々な角度から論評が加えられ、精緻な研究が続々と発表されていることから、われわれ、すなわち教員、学生共々、否応なしに自己を客観視し、相対化して観察するといった態度が必要となるのである。その際、日本の現実が海外の人々の目にどう映じているか、それを知ることが参考になるわけである。こうした点にも、これらの教科書を出版したねらいの一つがあったわけである。

毎年、様々な教科書が作られ、各々新しい要素、ねらいが盛られ、工夫されているわけであるが、教科書の研究開発も今後ともわれわれフランス語教員の

大きな課題であるとする。

以上のような点を指摘し結びにかえたいと思う。

### あ と が き

このような多くの項目にわたる調査は私にとって初めてであり、整理しながら、私の力量不足により質問事項の内容に一考を要するものや、主旨が必ずしも伝わらなかったことなどにより不十分な結果しか得られなかったものもあり、このような調査のむずかしさを実感したわけである。また大事な問題点その他を見逃していること、あるいは不適切な点もあると思われる。是非、大方の御教示と御叱正を頂ければ幸いである。

最後に、この調査に御協力頂いた先生方、学生諸君、職員の方々、またコンピューター処理に労苦を惜しまず協力して下さった坂野友昭先生に深甚の謝意を表す所である。